

# 新潟県精神通院自立支援医療 診断書調査報告書(第2版)

平成28年12月

新潟県精神保健福祉センター

# 目次

I. 要旨 .....	1
II. 調査概要 .....	1
III. 結果 .....	3
1. 基本属性 .....	3
(1) 性および年齢 .....	3
(2) 疾病分類別平均年齢 .....	4
(3) (年齢階級別) 疾病分類割合 .....	4
(4) 性別平均年齢 .....	6
(5) 年齢階級別性別割合 .....	6
(6) 疾病分類別性別割合 .....	7
(7) 対象外とした件数及び割合の推移 .....	7
(8) 診断書作成日から判定会議までの日数.....	9
2. 疾病分類別処方薬剤種類数 .....	10
(1) F0 .....	10
(2) F1 .....	11
(3) F2 .....	12
(4) F3 .....	13
(5) F4 .....	14
(6) F5 .....	15
(7) F6 .....	16
(8) F7 .....	17
(9) F8 .....	18
(10) F9 .....	19
(11) G40 .....	20
(12) 全疾病分類合計 .....	21
(13) 疾病分類別向精神薬平均処方数 .....	22
(14) 処方パターンの類型化 .....	23
3. 処方薬剤種類数に関するクロス集計 .....	26
(1) 年齢階級別処方薬剤種類数 .....	26
(2) 性別処方薬剤種類数 .....	32
(3) 四半期別処方薬剤種類数 .....	35
(4) 抗精神病薬、睡眠薬、抗うつ薬、抗不安薬の併用状況.....	40

4.	精神療法等実施状況 .....	43
	(1) 疾病分類別精神療法等実施件数および割合.....	43
	(2) 家族療法に関するクロス集計 .....	46
IV.	まとめと考察 .....	48
	(1) 調査の背景と目的 .....	48
	(2) 対象の基本属性 .....	48
	(3) 調査の限界 .....	48
	(4) 投薬治療全般 .....	50
	(5) 抗精神病薬 .....	50
	(6) 抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬 .....	52
	(7) F0 への処方薬剤.....	53
	(8) 精神療法等 .....	54
	(9) まとめ .....	54
文	献.....	55

注、巻末に資料として本県の精神通院自立支援医療診断書様式（第5号様式(第4条関係)）を添付した。

# 図表目次

表 1 ICD-10 コードと診断カテゴリー名の対応表.....	2
図 1 性別件数および割合 .....	3
図 2 年齢階級別件数.....	3
表 2 疾病分類別平均年齢、同標準偏差、件数 .....	4
図 3 疾病分類別平均年齢（+標準偏差）グラフ .....	4
図 4 疾病分類割合円グラフ .....	4
表 3 年齢階級別疾病分類別件数および割合 .....	5
図 5 年齢階級別疾病分類割合 .....	5
表 4 性別平均年齢および件数.....	6
表 5 年齢階級別性別件数および割合 .....	6
図 6 年齢階級別性別割合 .....	6
表 6 疾病分類別性別件数および割合 .....	7
図 7 疾病分類別性別割合 .....	7
表 7 月別対象・対象外件数および割合 .....	8
図 8 月別対象件数 .....	8
図 9 月別対象外割合.....	9
図 10 判定会議までの日数ヒストグラム.....	9
表 8 F0 処方薬剤種類数.....	10
図 11 F0 処方薬剤種類数グラフ .....	10
表 9 F1 処方薬剤種類数.....	11
図 12 F1 処方薬剤種類数グラフ .....	11
表 10 F2 処方薬剤種類数.....	12
図 13 F2 処方薬剤種類数グラフ .....	12
表 11 F3 処方薬剤種類数.....	13
図 14 F3 処方薬剤種類数グラフ .....	13
表 12 F4 処方薬剤種類数.....	14
図 15 F4 処方薬剤種類数グラフ .....	14
表 13 F5 処方薬剤種類数.....	15
図 16 F5 処方薬剤種類数グラフ .....	15
表 14 F6 処方薬剤種類数.....	16
図 17 F6 処方薬剤種類数グラフ .....	16
表 15 F7 処方薬剤種類数.....	17
図 18 F7 処方薬剤種類数グラフ .....	17
表 16 F8 処方薬剤種類数.....	18
図 19 F8 処方薬剤種類数グラフ .....	18
表 17 F9 処方薬剤種類数.....	19
図 20 F9 処方薬剤種類数グラフ .....	19

表 18	G40 処方薬剤種類数.....	20
図 21	G40 処方薬剤種類数グラフ .....	20
表 19	全疾病分類処方薬剤種類数 .....	21
図 22	全疾病分類処方薬剤種類数グラフ.....	21
表 20	疾病分類別向精神薬平均処方数.....	22
図 23	疾病分類別向精神薬平均処方数グラフ .....	22
表 21	疾病分類別薬剤分類別処方有り件数及び比.....	23
図 24	抗うつ薬、抗不安薬を主とする処方パターン .....	23
図 25	疾病特異性が高い薬剤を主とする処方パターン .....	24
図 26	抗精神病薬を主とする処方パターン.....	24
図 27	睡眠薬、抗酒薬、抗精神病薬を主とする処方パターン(F1).....	25
図 28	抗精神病薬、抗認知症薬が並立する処方パターン(F0) .....	25
表 22	年齢階級別 F2 の抗精神病薬処方種類数 .....	26
図 29	年齢階級別 F2 の抗精神病薬処方種類数グラフ .....	27
図 30	年齢階級別 F2 の抗精神病薬単剤割合 .....	27
表 23	年齢階級別 F3 の抗うつ薬処方種類数.....	28
図 31	年齢階級別 F3 の抗うつ薬処方種類数グラフ .....	28
図 32	年齢階級別 F3 の抗うつ薬単剤割合 (60~85%の区間を拡大して表示) .....	29
表 24	年齢階級別全疾病分類の睡眠薬処方種類数.....	30
図 33	年齢階級別全疾病分類の睡眠薬処方種類数グラフ .....	30
表 25	年齢階級別全疾病分類の抗不安薬処方種類数.....	31
図 34	年齢階級別全疾病分類の抗不安薬処方種類数グラフ.....	31
表 26	性別 F2 の抗精神病薬処方種類数 .....	32
図 35	性別 F2 の抗精神病薬処方種類数グラフ.....	32
表 27	性別 F3 の抗うつ薬処方種類数.....	32
図 36	性別 F3 の抗うつ薬処方種類数グラフ .....	33
表 28	性別全疾病分類の睡眠薬処方種類数.....	33
図 37	性別全疾病分類の睡眠薬処方種類数グラフ .....	33
表 29	性別全疾病分類の抗不安薬処方種類数.....	34
図 38	性別全疾病分類の抗不安薬処方種類数グラフ .....	34
表 30	四半期別 F2 の抗精神病薬処方種類数.....	35
図 39	四半期別 F2 の抗精神病薬処方種類数グラフ .....	36
表 31	四半期別 F3 の抗うつ薬処方種類数.....	36
図 40	四半期別 F3 の抗うつ薬処方種類数グラフ .....	37
表 32	四半期別全疾病分類の睡眠薬処方種類数 .....	37
図 41	四半期別全疾病分類の睡眠薬処方種類数グラフ .....	38
表 33	四半期別全疾病分類の抗不安薬処方種類数.....	38
図 42	四半期別全疾病分類の抗不安薬処方種類数グラフ .....	39
表 34	四半期別減算対象種類数以上の処方割合 .....	39

図 43 四半期別減算対象種類数以上の処方割合グラフ .....	39
表 35 抗精神病薬×抗うつ薬併用件数及び割合 .....	40
表 36 抗精神病薬×睡眠薬併用件数及び割合 .....	40
表 37 抗精神病薬×抗不安薬併用件数及び割合 .....	41
表 38 抗うつ薬×抗不安薬併用件数及び割合 .....	41
表 39 抗うつ薬×睡眠薬併用件数及び割合 .....	41
表 40 抗不安薬×睡眠薬併用件数及び割合 .....	42
図 44 向精神薬処方上位 4 分類併用割合 .....	42
表 41 疾病分類別精神療法等実施数および割合 .....	43
図 45 疾病分類別支持的精神療法実施割合グラフ .....	43
図 46 疾病分類別認知行動療法実施割合グラフ (以下 4 グラフの縦軸の最大値は 50%) .....	44
図 47 疾病分類別家族療法実施割合グラフ .....	44
図 48 疾病分類別集団療法実施割合グラフ .....	45
図 49 疾病分類別その他の精神療法実施割合グラフ .....	45
表 42 性別疾病分類別家族療法実施状況 .....	46
図 50 性別疾病分類別家族療法実施割合 .....	46
表 43 F2 の年齢階級別家族療法実施状況 .....	46
表 44 F3 の年齢階級別家族療法実施状況 .....	47
図 51 F2 および F3 年齢階級別家族療法実施割合 .....	47
表 45 本報告書と大規模診療報酬データを用いた研究の処方割合の比較 .....	51

# I. 要旨

平成 26 年と 27 年の 2 年間に開催された新潟県・新潟市合同の判定会議の答申に基づき受給が認定された新潟県管轄分の精神通院自立支援医療申請（手帳同時申請を除く、以下同様）について、診断書の性、年齢、主たる精神障害の ICD-10 疾病分類、現在の治療内容のうち投薬治療と精神療法等の実施状況を調査した。処方が多かった薬剤の上位 5 分類は抗精神病薬（調査対象の 54.7%で処方有り）、睡眠薬（同 49.1%）、抗不安薬（同 40.3%）、抗うつ薬（同 37.6%）、気分安定薬（同 19.1%）であった。精神療法等では 87.1%が支持的精神療法を、7.4%が家族療法を、5.4%が認知行動療法を、0.6%が集団療法を、1.5%がその他の精神療法を受けていた。

# II. 調査概要

## 1 目的

新潟県内における適正な精神通院自立支援医療の確保に資するため、精神通院自立支援医療申請用診断書（「第 5 号様式(第 4 条関係)」または同等の他県様式、以下まとめて「診断書」と略）をもとに、同受給者の基本属性と診断時点における治療内容を把握し基礎資料を得るとともに関係機関に情報提供を行う。

## 2 調査の実施主体

新潟県精神保健福祉センター

## 3 方法

(1) 対象：平成 26 年と 27 年の 2 年間に開催された新潟県・新潟市合同の判定会議の答申に基づき受給が認定された、新潟市を除く新潟県内に居住する患者からの申請にかかる診断書 18,627 件のうち、向精神薬 8 分類(抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬、抗てんかん薬、抗認知症薬、抗酒薬)のいずれかに丸印が付されていたが、その全てで種類数の特定が不可能であった 755 件を除く 17,872 件

(2) 入力および分析方法：調査項目を Excel 形式の所定のファイルに入力し、項目ごとの集計を行った。さらに、疾病分類と薬剤の代表的な組み合わせ 2 通り（F2 の抗精神病薬、F3 の抗うつ薬）、全疾病分類の抗不安薬・睡眠薬、計 4 通りの処方について、性、年齢階級、受給にかかる判定会議開催時期（四半期）との間でクロス集計を行った。また、精神療法のうち支持的精神療法に次いで実施割合の高い家族療法に関し、性別、年齢階級別のクロス集計を行った。

(3) 調査項目：性、年齢、主たる精神障害（ICD-10 疾病分類の F0 から F9 までと G40 の計 11 分類、コードと診断カテゴリー名の対応表は次ページ表 1 のとおり）、薬剤分類別処方種類数(抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬、抗てんかん薬、抗認知症薬、抗酒薬、その他の 9 分類。ただし、向精神薬の分類別種類数の算出および入力方法は「注、

処方薬剤種類数算出および入力方法」による)、精神療法等の有無(支持的精神療法、認知行動療法、家族療法・指導、集団精神療法、その他)、認定にかかる判定会議開催の日付

(4) 作業方法：作業にあたっては個人情報保護に留意し、結果は個人の特定ができないよう集計結果のみ公表することとした。

表 1 ICD-10 コードと診断カテゴリー名の対応表

ICD-10コード	診断カテゴリー名
F0	症状性を含む器質性精神障害
F1	精神作用物質使用による精神および行動の障害
F2	統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害
F3	気分(感情)障害
F4	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
F5	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
F6	成人のパーソナリティおよび行動の障害
F7	知的障害
F8	心理的発達障害
F9	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害、特定不能の精神障害
G40	てんかん

注、処方薬剤種類数算出および入力方法

1. 原則として本県の精神通院自立支援医療申請用診断書様式(第5号様式(第4条関係)、本報告書巻末資料)の「⑤ 現在の治療内容」欄の薬剤分類名の後に記載された( )内の薬剤の種類数を読み取り入力する。「頓用」、「頓服」との特記がある場合も特記が無い通常の処方と同様にカウントする。
2. 他県の様式、または本県旧様式の診断書で薬剤分類ごとの種類数の記載が無く、薬剤の一般名や商品名の記載が別にある場合は、平成26年保医発0305第3号「診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について」別紙様式36、または「くすりの適正使用協議会」webの医薬品情報検索ページ「くすりのしおり」の記載を参考に分類し種類数を算出して入力する。なお、本報告書第1版では読み取りの範囲を「⑤ 現在の治療内容」欄のみとしていたが、第2版では「⑤ 現在の治療内容」欄の向精神薬8分類(抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬、抗てんかん薬、抗認知症薬、抗酒薬)のいずれかに丸が付され、そのいずれについても種類数が特定できない診断書は「② 発病から現在までの病歴」「④ 上記③の病状、状態像等」も読み取りの範囲に加えた。
3. 種類数とともに薬剤の一般名や商品名の記載もあり、その両者に矛盾が生ずる場合は原則として一般名や商品名をもとに算出した種類数を入力する。なお、一般名アカンプロサートカルシウムは断酒補助薬と称されるが、本報告書「その他」欄に( )書きで記載された同薬は便宜上抗酒薬に分類を変更しカウントした。
4. 薬剤分類名に丸印が付されているが( )内に種類数の記載がない分類は、処方無しとして扱い種類数にゼロを入力する。

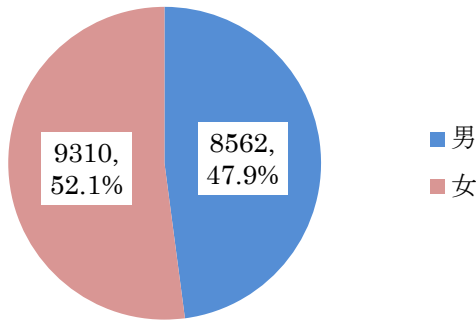
# III. 結果

## 1. 基本属性

### (1) 性および年齢

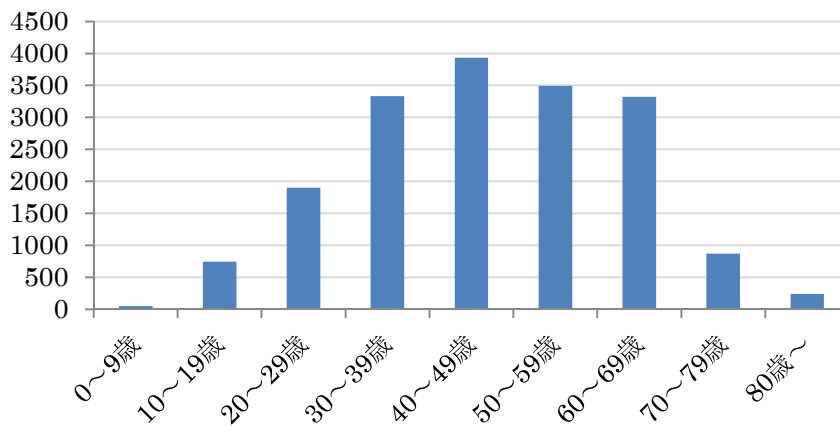
分析の対象とした 17,872 件の男女比は 1 : 1.09 と女性が多い。平均年齢±標準偏差は 46.8 ± 15.7 才であった。

図 1 性別件数および割合



年齢階級別件数は 40 代(40 歳以上 50 歳未満、以下同様)が最も多く、以下 50、30、60 代の順である(図 2、表 3)。

図 2 年齢階級別件数



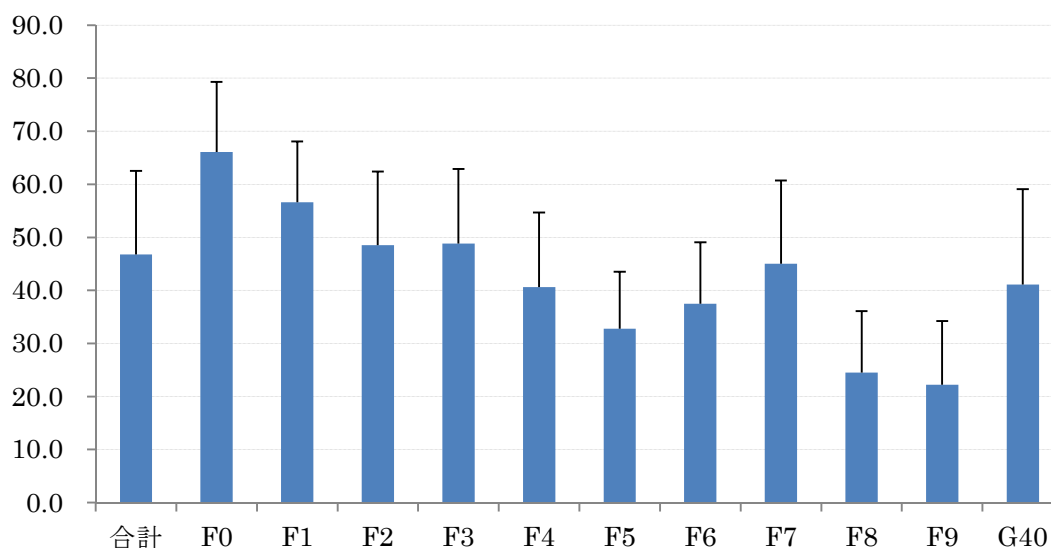
## (2) 疾病分類別平均年齢

疾病分類別の平均年齢はF0が最も高く、以下F1、F3、F2の順で、F9が最も低い。

表 2 疾病分類別平均年齢、同標準偏差、件数

	合計	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40
平均年齢	46.8	66.1	56.6	48.5	48.8	40.6	32.8	37.5	45.0	24.5	22.2	41.1
標準偏差	15.7	13.2	11.5	13.9	14.1	14.1	10.7	11.6	15.7	11.6	12.0	18.0
対象件数	17872	515	347	6262	6295	1080	60	187	885	547	189	1505

図 3 疾病分類別平均年齢 (+標準偏差) グラフ



## (3) (年齢階級別) 疾病分類割合

全年齢階級の合計ではF3が35.2%を占め最も多く、F2が35.0%とそれに次ぎ、両者の合計で全対象の3分の2を上回る(図4、次ページ表3)。年齢階級別では10歳未満はF8が、10代はG40、F8が、20代から70代はF3、F2の占める割合が高い。60歳以上はF0の占める割合が加齢に伴い急激に高くなり、80歳以上では4割に近い(次ページ表3、図5)。

図 4 疾病分類割合円グラフ

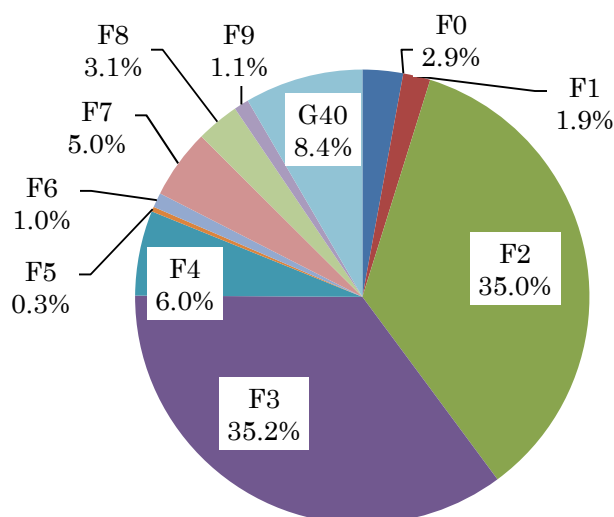
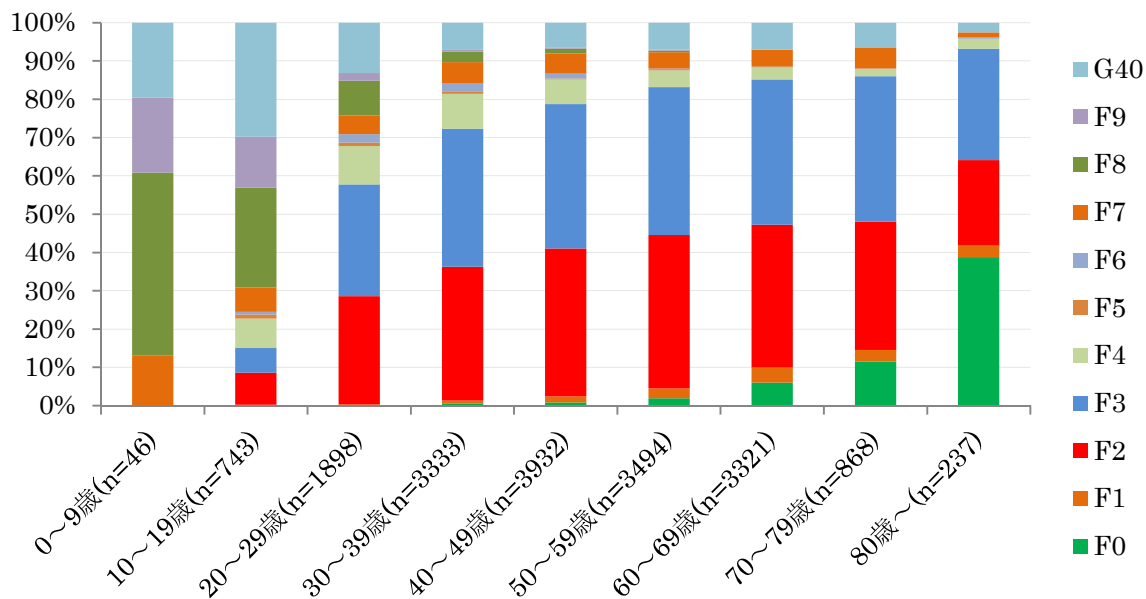


表 3 年齢階級別疾病分類別件数および割合

対象件数	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40	合計
0～9歳	0	0	0	0	0	0	0	6	22	9	9	46
10～19歳	1	1	62	48	57	8	5	47	194	99	221	743
20～29歳	3	4	536	554	190	17	41	93	172	38	250	1898
30～39歳	18	26	1165	1200	304	22	68	188	91	20	231	3333
40～49歳	33	62	1518	1484	252	10	48	209	49	14	253	3932
50～59歳	68	89	1399	1351	151	2	16	149	14	9	246	3494
60～69歳	200	132	1238	1259	104	1	7	142	5	0	233	3321
70～79歳	100	26	291	330	16	0	1	48	0	0	56	868
80歳～	92	7	53	69	6	0	1	3	0	0	6	237
合計	515	347	6262	6295	1080	60	187	885	547	189	1505	17872
割合	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40	合計
0～9歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	13.0%	47.8%	19.6%	19.6%	100.0%
10～19歳	0.1%	0.1%	8.3%	6.5%	7.7%	1.1%	0.7%	6.3%	26.1%	13.3%	29.7%	100.0%
20～29歳	0.2%	0.2%	28.2%	29.2%	10.0%	0.9%	2.2%	4.9%	9.1%	2.0%	13.2%	100.0%
30～39歳	0.5%	0.8%	35.0%	36.0%	9.1%	0.7%	2.0%	5.6%	2.7%	0.6%	6.9%	100.0%
40～49歳	0.8%	1.6%	38.6%	37.7%	6.4%	0.3%	1.2%	5.3%	1.2%	0.4%	6.4%	100.0%
50～59歳	1.9%	2.5%	40.0%	38.7%	4.3%	0.1%	0.5%	4.3%	0.4%	0.3%	7.0%	100.0%
60～69歳	6.0%	4.0%	37.3%	37.9%	3.1%	0.0%	0.2%	4.3%	0.2%	0.0%	7.0%	100.0%
70～79歳	11.5%	3.0%	33.5%	38.0%	1.8%	0.0%	0.1%	5.5%	0.0%	0.0%	6.5%	100.0%
80歳～	38.8%	3.0%	22.4%	29.1%	2.5%	0.0%	0.4%	1.3%	0.0%	0.0%	2.5%	100.0%
合計	2.9%	1.9%	35.0%	35.2%	6.0%	0.3%	1.0%	5.0%	3.1%	1.1%	8.4%	100.0%

図 5 年齢階級別疾病分類割合



#### (4) 性別平均年齢

平均年齢は男女とも 40 代後半で女性が 1.0 歳高い。

表 4 性別平均年齢および件数

	男	女	合計
平均	46.3	47.3	46.8
標準偏差	15.5	15.9	15.7
対象者数	8562	9310	17872

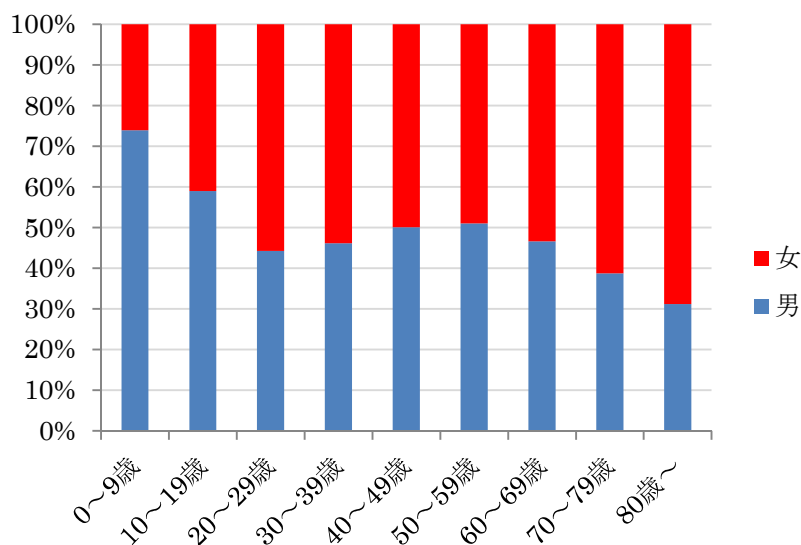
#### (5) 年齢階級別性別割合

10 歳未満は男性が多く、20 代までは加齢に伴い女性の割合が上昇する。30 歳以上は一転して男性の割合が上昇するが、60 歳以上は再び女性の割合が上昇し、80 歳以上では 7 割に近い。

表 5 年齢階級別性別件数および割合

対象件数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男	34	438	840	1538	1969	1784	1549	336	74	8562
女	12	305	1058	1795	1963	1710	1772	532	163	9310
合計	46	743	1898	3333	3932	3494	3321	868	237	17872
割合	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
男	73.9%	59.0%	44.3%	46.1%	50.1%	51.1%	46.6%	38.7%	31.2%	47.9%
女	26.1%	41.0%	55.7%	53.9%	49.9%	48.9%	53.4%	61.3%	68.8%	52.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図 6 年齢階級別性別割合



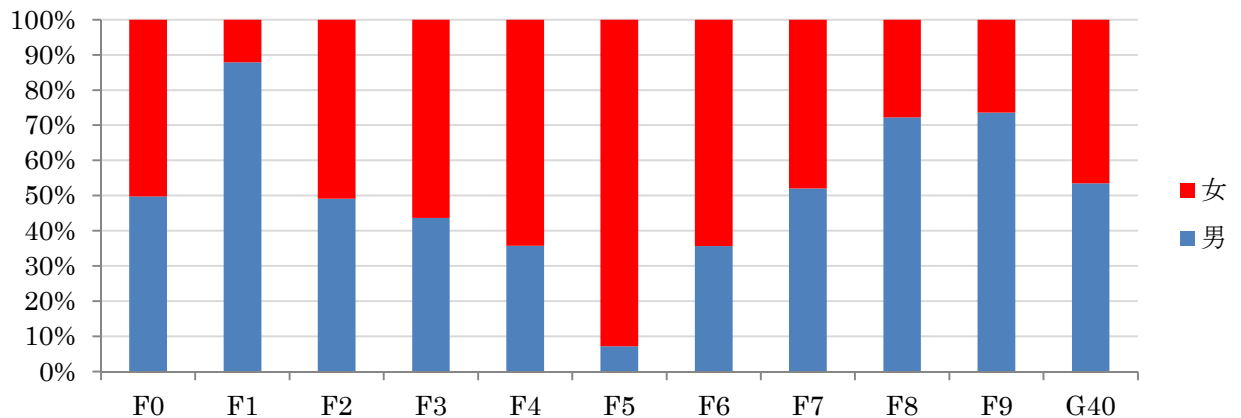
## (6) 疾病分類別性別割合

F1 は男性が、F5 は女性が圧倒的に多い。F3、F4、F6 は女性が多く、F7、F8、F9 は男性が多い。F0、F2、G40 は男女の割合はほぼ等しい。

表 6 疾病分類別性別件数および割合

対象件数	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40	合計
男	251	289	3165	2586	370	7	54	513	393	133	801	8562
女	264	58	3097	3709	710	53	133	372	154	56	704	9310
合計	515	347	6262	6295	1080	60	187	885	547	189	1505	17872
割合	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40	合計
男	48.7%	83.3%	50.5%	41.1%	34.3%	11.7%	28.9%	58.0%	71.8%	70.4%	53.2%	47.9%
女	51.3%	16.7%	49.5%	58.9%	65.7%	88.3%	71.1%	42.0%	28.2%	29.6%	46.8%	52.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図 7 疾病分類別性別割合



## (7) 対象外とした件数及び割合の推移

受給は認定されたが今回の分析からは除外した診断書の件数、すなわち向精神薬 8 分類 (抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬、抗てんかん薬、抗認知症薬、抗酒薬) のいずれかに丸印が付されていたが、その全てで種類数の特定が不可能であったものは 755 件、割合は 2 年間の平均で 4.1%であった。対象、対象外それぞれの月別内訳は次ページ表 7、図 8 のとおりで、月を経るに従い対象外割合は低下し、平成 27 年 3 月以降は 2%以下で推移した (図 9)。なお、本報告書第 1 版では手帳同時申請用診断書 (様式 16) に基づく精神通院自立支援医療のみの申請も対象外件数に含めていたが、同様式には薬剤種類数を記載する欄はもともと存在しないため、第 2 版では対象外件数からも除きあらためて対象外割合を算出した。

表 7 月別対象・対象外件数および割合

件数	対象	対象外	合計	割合	対象	対象外	合計
26年1月	664	110	774	26年1月	85.8%	14.2%	100.0%
26年2月	1042	133	1175	26年2月	88.7%	11.3%	100.0%
26年3月	606	55	661	26年3月	91.7%	8.3%	100.0%
26年4月	412	53	465	26年4月	88.6%	11.4%	100.0%
26年5月	514	47	561	26年5月	91.6%	8.4%	100.0%
26年6月	421	44	465	26年6月	90.5%	9.5%	100.0%
26年7月	408	46	454	26年7月	89.9%	10.1%	100.0%
26年8月	456	32	488	26年8月	93.4%	6.6%	100.0%
26年9月	373	30	403	26年9月	92.6%	7.4%	100.0%
26年10月	381	24	405	26年10月	94.1%	5.9%	100.0%
26年11月	434	23	457	26年11月	95.0%	5.0%	100.0%
26年12月	410	10	420	26年12月	97.6%	2.4%	100.0%
27年1月	479	12	491	27年1月	97.6%	2.4%	100.0%
27年2月	889	20	909	27年2月	97.8%	2.2%	100.0%
27年3月	1348	25	1373	27年3月	98.2%	1.8%	100.0%
27年4月	1146	11	1157	27年4月	99.0%	1.0%	100.0%
27年5月	1074	18	1092	27年5月	98.4%	1.6%	100.0%
27年6月	994	13	1007	27年6月	98.7%	1.3%	100.0%
27年7月	1096	7	1103	27年7月	99.4%	0.6%	100.0%
27年8月	1164	9	1173	27年8月	99.2%	0.8%	100.0%
27年9月	1040	7	1047	27年9月	99.3%	0.7%	100.0%
27年10月	932	9	941	27年10月	99.0%	1.0%	100.0%
27年11月	842	7	849	27年11月	99.2%	0.8%	100.0%
27年12月	747	10	757	27年12月	98.7%	1.3%	100.0%
計	17872	755	18627	計	95.9%	4.1%	100.0%

図 8 月別対象件数

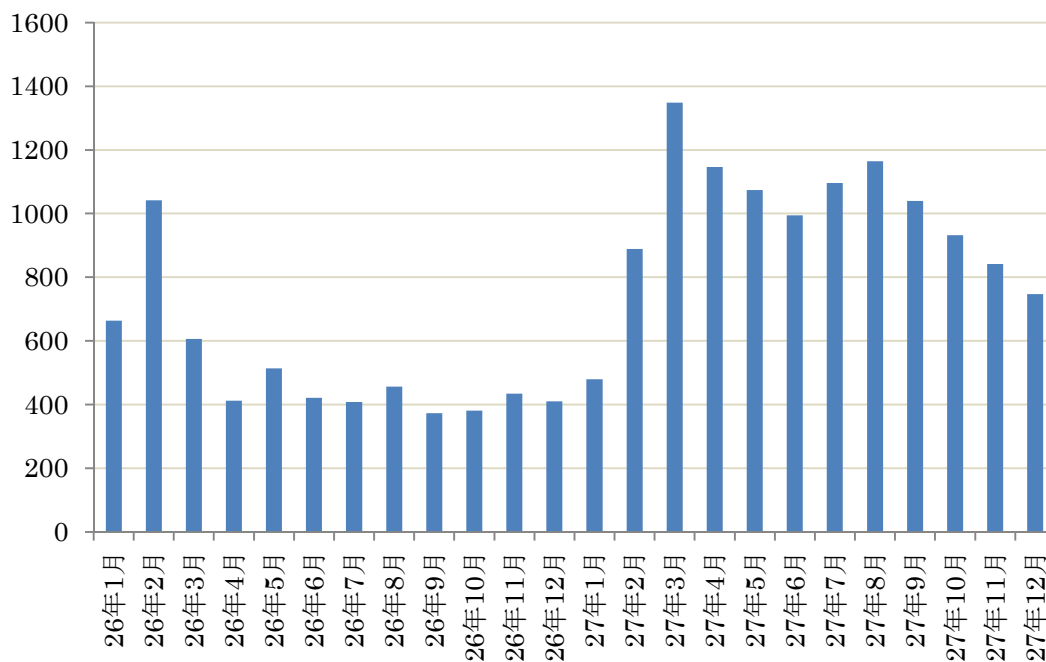
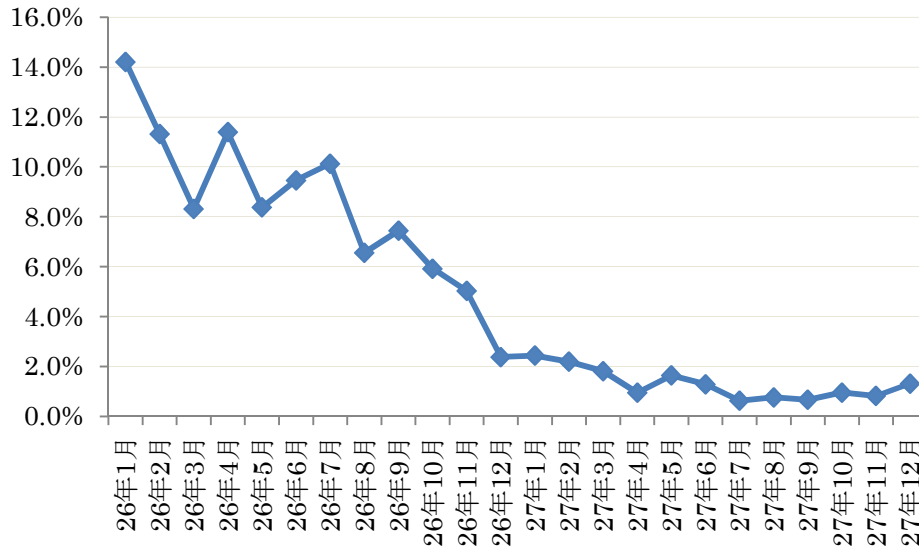


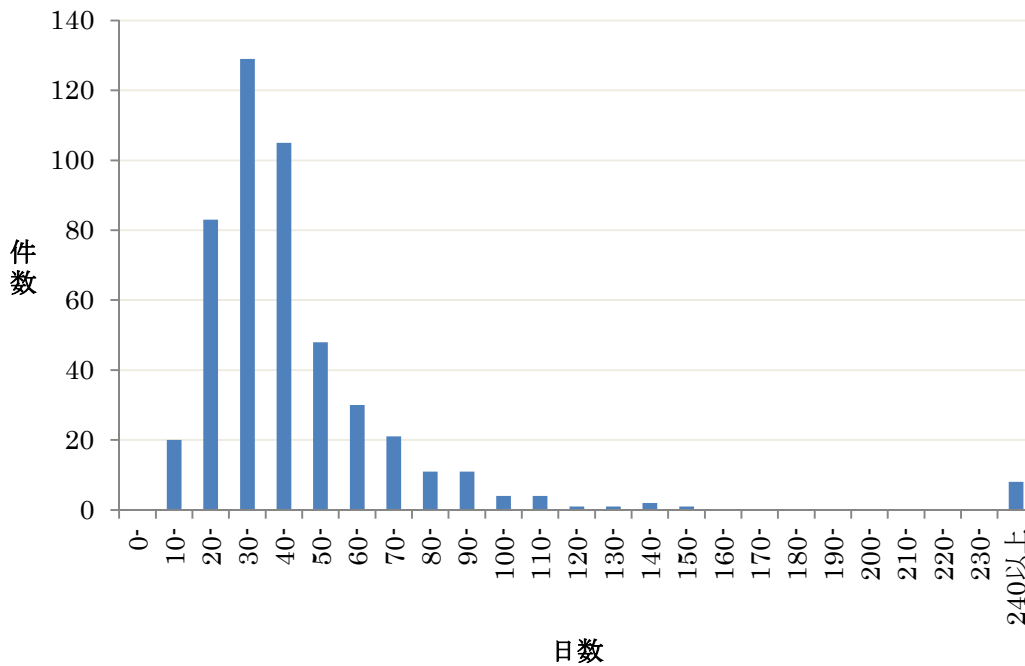
図 9 月別対象外割合



(8) 診断書作成日から判定会議までの日数

対象期間2年間のほぼ中間の時期に当たる平成27年1月判定分479件について、診断書作成日から認定を受けた判定会議開催日までの日数を集計した。日数の平均は52.8±69.3日、中央値は40日であった。

図 10 判定会議までの日数ヒストグラム



例、横軸の区間名「10-」は10日以上20日未満を意味する。

## 2. 疾病分類別処方薬剤種類数

以下、疾病分類別に向精神薬8分類と「その他」薬の処方状況を比較した。

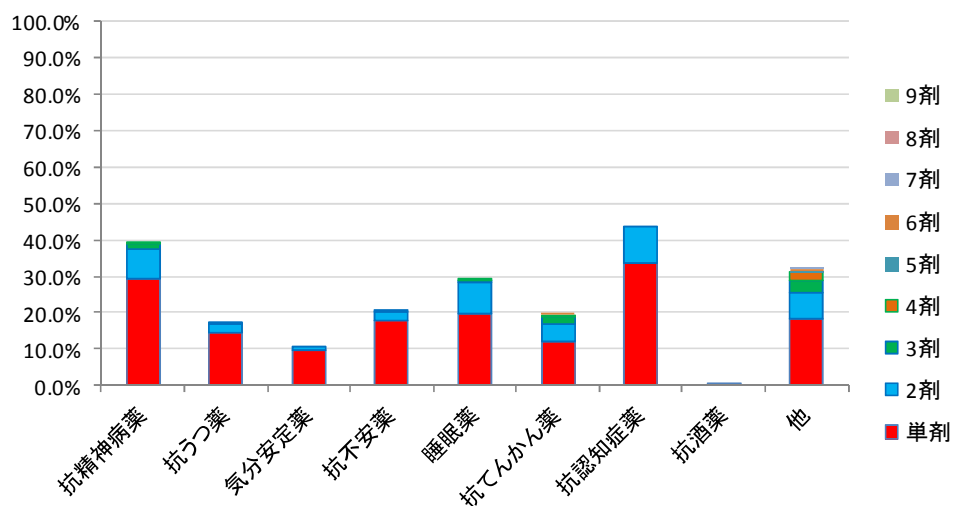
### (1) F0

抗認知症薬が43.5%に処方され最も多く、抗精神病薬が39.0%とそれに次ぐ。以下、睡眠薬29.1%、抗不安薬20.6%、抗てんかん薬19.6%、抗うつ薬16.9%、気分安定薬10.7%と続き、抗酒薬は0.4%であった。

表 8 F0 処方薬剤種類数

件数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤(A)	151	74	50	92	101	62	174	2	93
2剤	43	12	5	13	44	25	50	0	39
3剤	5	1	0	1	4	10	0	0	17
4剤	2	0	0	0	1	3	0	0	11
5剤	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6剤	0	0	0	0	0	1	0	0	3
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	1
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処方無し(B)	314	428	460	409	365	414	291	513	350
合計(C)	515	515	515	515	515	515	515	515	515
割合	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤	29.3%	14.4%	9.7%	17.9%	19.6%	12.0%	33.8%	0.4%	18.1%
2剤	8.3%	2.3%	1.0%	2.5%	8.5%	4.9%	9.7%	0.0%	7.6%
3剤	1.0%	0.2%	0.0%	0.2%	0.8%	1.9%	0.0%	0.0%	3.3%
4剤	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.6%	0.0%	0.0%	2.1%
5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.6%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し	61.0%	83.1%	89.3%	79.4%	70.9%	80.4%	56.5%	99.6%	68.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合(C-B)/C	39.0%	16.9%	10.7%	20.6%	29.1%	19.6%	43.5%	0.4%	32.0%
単剤割合A/(C-B)	75.1%	85.1%	90.9%	86.8%	67.3%	61.4%	77.7%	100.0%	56.4%

図 11 F0 処方薬剤種類数グラフ



注、本報告書において「単剤、2剤、、、」等の表記は「1種類、2種類、、、」等と同義である。

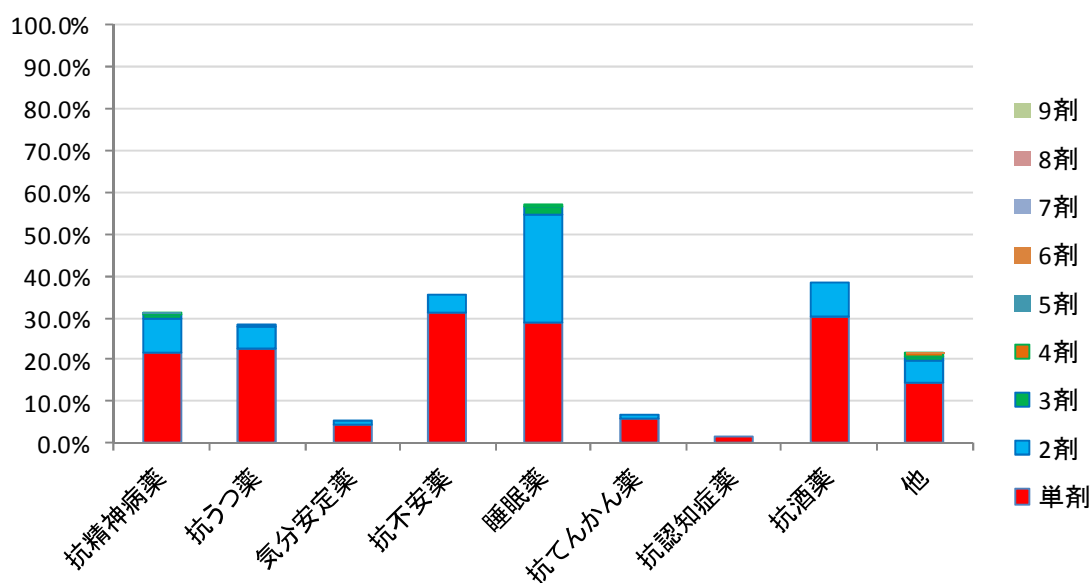
(2) F1

睡眠薬が 56.8%に処方され最も多く、以下、抗酒薬 38.3%、抗不安薬 35.7%、抗精神病薬 31.1%、抗うつ薬 28.2%と続く。抗てんかん薬、気分安定薬、抗認知症薬はいずれも 10%に満たない。

表 9 F1 処方薬剤種類数

件数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤(A)	75	78	16	108	100	20	6	105	50
2剤	28	18	2	16	89	4	0	28	18
3剤	3	2	0	0	7	0	0	0	3
4剤	1	0	0	0	1	0	0	0	4
5剤	1	0	0	0	0	0	0	0	0
6剤	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処方無し(B)	239	249	329	223	150	323	341	214	271
合計(C)	347	347	347	347	347	347	347	347	347
割合	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤	21.6%	22.5%	4.6%	31.1%	28.8%	5.8%	1.7%	30.3%	14.4%
2剤	8.1%	5.2%	0.6%	4.6%	25.6%	1.2%	0.0%	8.1%	5.2%
3剤	0.9%	0.6%	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
4剤	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%
5剤	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し	68.9%	71.8%	94.8%	64.3%	43.2%	93.1%	98.3%	61.7%	78.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合(C-B)/C	31.1%	28.2%	5.2%	35.7%	56.8%	6.9%	1.7%	38.3%	21.9%
単剤割合A/(C-B)	69.4%	79.6%	88.9%	87.1%	50.8%	83.3%	100.0%	78.9%	65.8%

図 12 F1 処方薬剤種類数グラフ



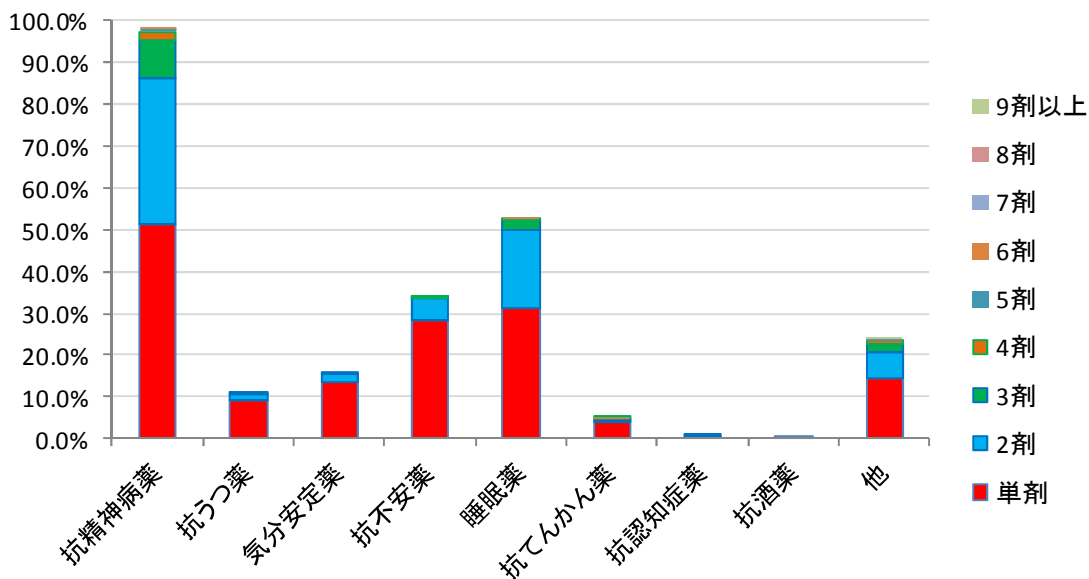
(3) F2

抗精神病薬は98.1%とほぼ全例で処方され、その単剤割合は52.4%である。なお、下表から算出した抗精神病薬の延べ処方種類数の合計を、処方無しも含むF2の全件数6262件で除した抗精神病薬の平均処方種類数は1.605であった。以下、処方割合が高い順に睡眠薬52.8%、抗不安薬33.7%、気分安定薬15.7%、抗うつ薬10.4%と続き、抗てんかん薬、抗認知症薬、抗酒薬はいずれも5%に満たない。なお、その他薬に特記されている薬剤名としては緩下剤等とならんで、ピペリデン塩酸塩等抗パーキンソン薬が散見された。

表 10 F2 処方薬剤種類数

件数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤(A)	3219	574	857	1775	1950	243	25	9	902
2剤	2178	77	121	328	1174	40	2	0	404
3剤	566	2	4	8	137	14	0	0	114
4剤	140	0	0	2	35	3	0	0	50
5剤	36	0	0	0	7	0	0	0	19
6剤	6	0	0	0	1	2	0	0	7
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	6
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	2
9剤以上	0	0	0	0	0	0	0	0	4
処方無し(B)	117	5609	5280	4149	2958	5960	6235	6253	4754
合計(C)	6262	6262	6262	6262	6262	6262	6262	6262	6262
割合	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤	51.4%	9.2%	13.7%	28.3%	31.1%	3.9%	0.4%	0.1%	14.4%
2剤	34.8%	1.2%	1.9%	5.2%	18.7%	0.6%	0.0%	0.0%	6.5%
3剤	9.0%	0.0%	0.1%	0.1%	2.2%	0.2%	0.0%	0.0%	1.8%
4剤	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
5剤	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
6剤	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
処方無し	1.9%	89.6%	84.3%	66.3%	47.2%	95.2%	99.6%	99.9%	75.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合(C-B)/C	98.1%	10.4%	15.7%	33.7%	52.8%	4.8%	0.4%	0.1%	24.1%
単剤割合A/(C-B)	52.4%	87.9%	87.3%	84.0%	59.0%	80.5%	92.6%	100.0%	59.8%

図 13 F2 処方薬剤種類数グラフ



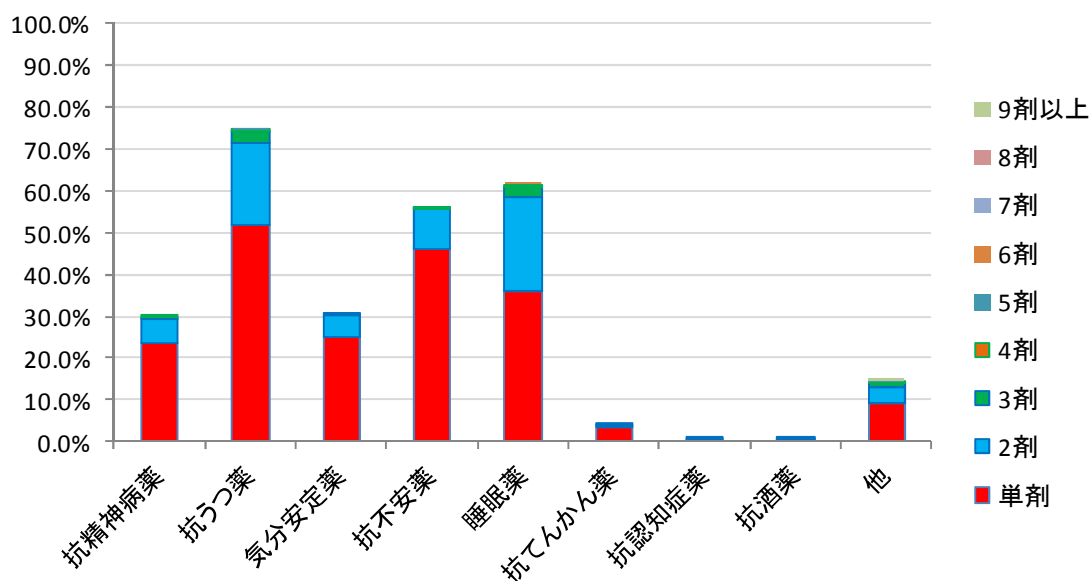
(4) F3

抗うつ薬は74.5%で処方され、その単剤割合は69.7%である。下表から算出した抗うつ薬の延べ処方種類数の合計を、処方無しも含むF3の全件数6,295件で除した平均処方種類数は1.001であった。以下、処方割合が高い順に睡眠薬61.6%、抗不安薬55.9%、気分安定薬30.3%、抗精神病薬29.9%と続き、抗てんかん薬、抗認知症薬、抗酒薬はいずれも5%に満たない。

表 11 F3 処方薬剤種類数

件数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤(A)	1496	3267	1575	2885	2267	231	41	31	591
2剤	340	1235	318	607	1415	26	3	2	222
3剤	41	176	12	24	165	1	0	0	56
4剤	6	6	0	1	24	0	0	0	36
5剤	0	3	0	0	6	0	0	0	15
6剤	0	0	0	0	2	0	0	0	6
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	2
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤以上	0	0	0	0	0	0	0	0	6
処方無し(B)	4412	1608	4390	2778	2416	6037	6251	6262	5361
合計(C)	6295	6295	6295	6295	6295	6295	6295	6295	6295
割合	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤	23.8%	51.9%	25.0%	45.8%	36.0%	3.7%	0.7%	0.5%	9.4%
2剤	5.4%	19.6%	5.1%	9.6%	22.5%	0.4%	0.0%	0.0%	3.5%
3剤	0.7%	2.8%	0.2%	0.4%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
4剤	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
処方無し	70.1%	25.5%	69.7%	44.1%	38.4%	95.9%	99.3%	99.5%	85.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合(C-B)/C	29.9%	74.5%	30.3%	55.9%	61.6%	4.1%	0.7%	0.5%	14.8%
単剤割合A/(C-B)	79.4%	69.7%	82.7%	82.0%	58.4%	89.5%	93.2%	93.9%	63.3%

図 14 F3 処方薬剤種類数グラフ



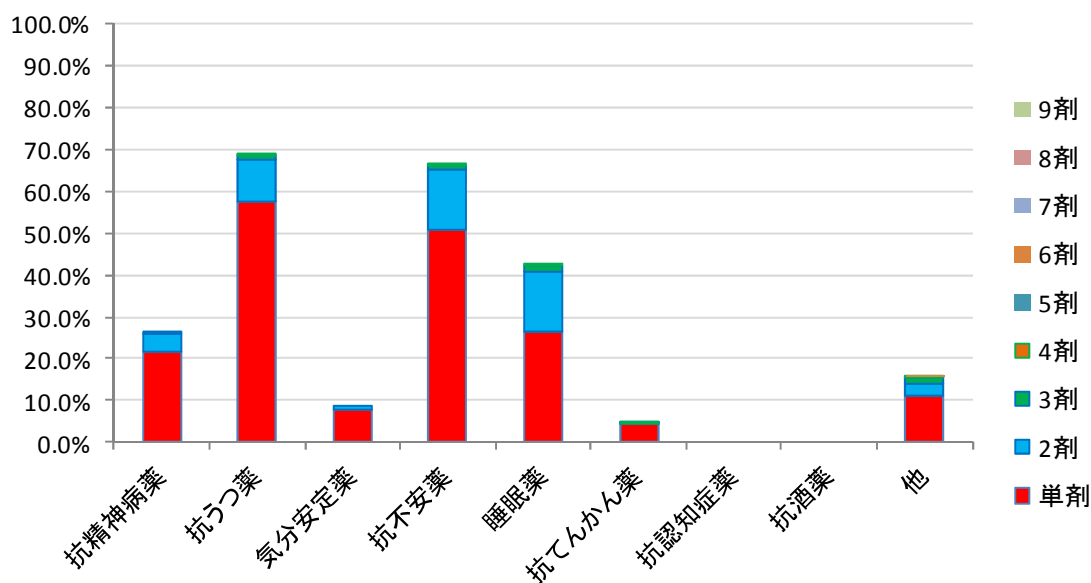
(5) F4

抗うつ薬が 68.4%で処方され、その単剤割合は 83.9%である。抗不安薬が次いで多く 66.3%で処方され、その単剤割合は 76.4%である。以下、処方割合が高い順に睡眠薬が 42.5%、抗精神病薬が 26.0%と続き、気分安定薬、抗てんかん薬はいずれも 10%に満たない。抗認知症薬、抗酒薬の処方は無かった。

表 12 F4 処方薬剤種類数

件数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤(A)	235	620	85	547	287	45	0	0	122
2剤	43	112	7	159	151	3	0	0	31
3剤	3	6	0	8	19	1	0	0	12
4剤	0	1	0	2	2	1	0	0	4
5剤	0	0	0	0	0	0	0	0	2
6剤	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処方無し(B)	799	341	988	364	621	1030	1080	1080	908
合計(C)	1080	1080	1080	1080	1080	1080	1080	1080	1080
割合	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤	21.8%	57.4%	7.9%	50.6%	26.6%	4.2%	0.0%	0.0%	11.3%
2剤	4.0%	10.4%	0.6%	14.7%	14.0%	0.3%	0.0%	0.0%	2.9%
3剤	0.3%	0.6%	0.0%	0.7%	1.8%	0.1%	0.0%	0.0%	1.1%
4剤	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.4%
5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し	74.0%	31.6%	91.5%	33.7%	57.5%	95.4%	100.0%	100.0%	84.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合(C-B)/C	26.0%	68.4%	8.5%	66.3%	42.5%	4.6%	0.0%	0.0%	15.9%
単剤割合A/(C-B)	83.6%	83.9%	92.4%	76.4%	62.5%	90.0%	-	-	70.9%

図 15 F4 処方薬剤種類数グラフ



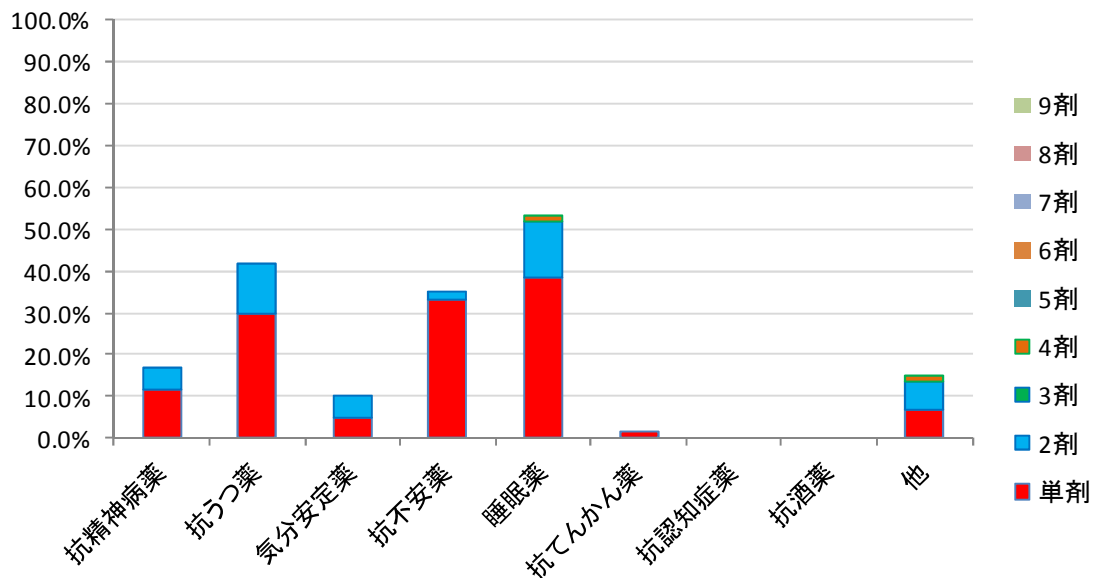
(6) F5

件数は60と少なく割合の評価は注意を要する。睡眠薬が53.3%で処方され、以下、抗うつ薬41.7%、抗不安薬35.0%、抗精神病薬が16.7%、気分安定薬10.0%と続く。抗てんかん薬は1.7%と少なく、抗認知症薬、抗酒薬の処方は無かった。

表 13 F5 処方薬剤種類数

件数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤(A)	7	18	3	20	23	1	0	0	4
2剤	3	7	3	1	8	0	0	0	4
3剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4剤	0	0	0	0	1	0	0	0	1
5剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処方無し(B)	50	35	54	39	28	59	60	60	51
合計(C)	60	60	60	60	60	60	60	60	60
割合	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤	11.7%	30.0%	5.0%	33.3%	38.3%	1.7%	0.0%	0.0%	6.7%
2剤	5.0%	11.7%	5.0%	1.7%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%
3剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%
5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し	83.3%	58.3%	90.0%	65.0%	46.7%	98.3%	100.0%	100.0%	85.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合(C-B)/C	16.7%	41.7%	10.0%	35.0%	53.3%	1.7%	0.0%	0.0%	15.0%
単剤割合A/(C-B)	70.0%	72.0%	50.0%	95.2%	71.9%	100.0%	-	-	44.4%

図 16 F5 処方薬剤種類数グラフ



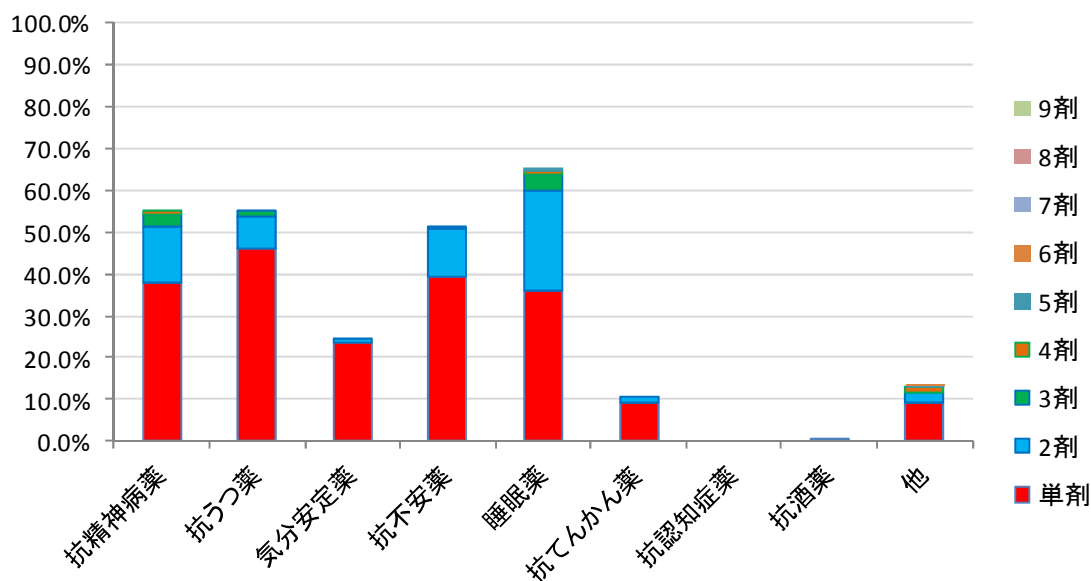
## (7) F6

睡眠薬が 65.2%で処方され、次いで抗精神病薬、抗うつ薬がともに 55.1%、抗不安薬が 51.3%と 4 薬剤分類で処方割合が 5 割を超えている。以下、気分安定薬が 24.6%、抗てんかん薬が 10.7%と続く。抗酒薬は 1 件のみで、抗認知症薬の処方は無かった。

表 14 F6 処方薬剤種類数

件数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤(A)	71	86	44	74	67	17	0	1	17
2剤	25	14	2	21	45	3	0	0	5
3剤	5	3	0	1	7	0	0	0	0
4剤	2	0	0	0	2	0	0	0	2
5剤	0	0	0	0	1	0	0	0	1
6剤	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処方無し(B)	84	84	141	91	65	167	187	186	161
合計(C)	187	187	187	187	187	187	187	187	187
割合	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤	38.0%	46.0%	23.5%	39.6%	35.8%	9.1%	0.0%	0.5%	9.1%
2剤	13.4%	7.5%	1.1%	11.2%	24.1%	1.6%	0.0%	0.0%	2.7%
3剤	2.7%	1.6%	0.0%	0.5%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4剤	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し	44.9%	44.9%	75.4%	48.7%	34.8%	89.3%	100.0%	99.5%	86.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合(C-B)/C	55.1%	55.1%	24.6%	51.3%	65.2%	10.7%	0.0%	0.5%	13.9%
単剤割合A/(C-B)	68.9%	83.5%	95.7%	77.1%	54.9%	85.0%	-	100.0%	65.4%

図 17 F6 処方薬剤種類数グラフ



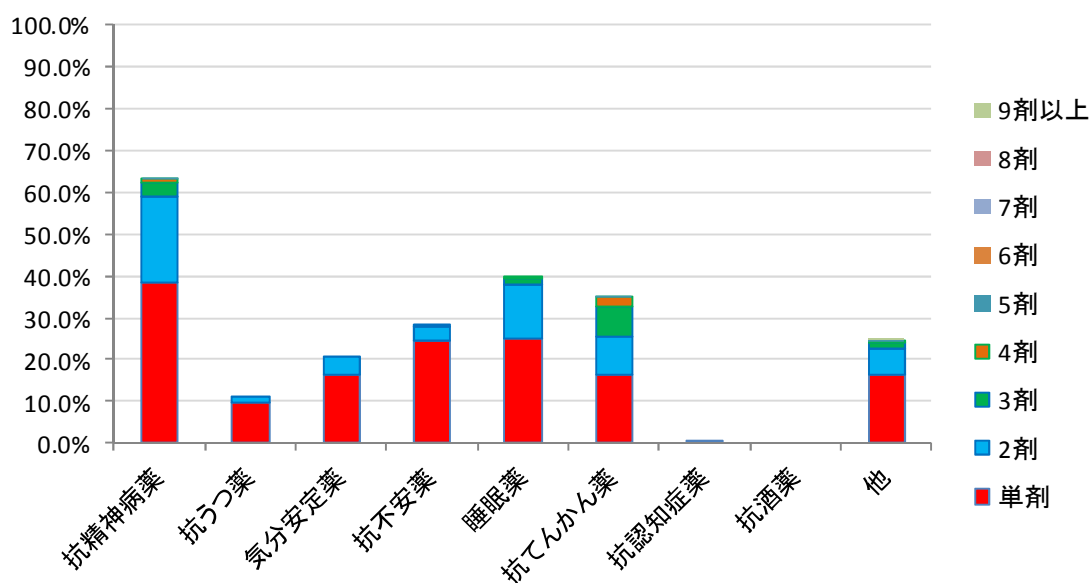
## (8) F7

抗精神病薬が 63.4%で処方され、その単剤割合は 60.2%である。以下、処方割合が高い順に睡眠薬が 39.4%、抗てんかん薬が 35.3%、抗不安薬が 28.2%、気分安定薬が 20.8%、抗うつ薬が 11.2%と続き、抗認知症薬は 1%に満たない。抗酒薬の処方は無かった。

表 15 F7 処方薬剤種類数

件数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤(A)	338	87	145	216	220	147	3	0	147
2剤	183	12	39	31	114	80	0	0	54
3剤	32	0	0	3	14	61	0	0	11
4剤	7	0	0	0	1	20	0	0	2
5剤	1	0	0	0	0	4	0	0	3
6剤	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	1
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤以上	0	0	0	0	0	0	0	0	1
処方無し(B)	324	786	701	635	536	573	882	885	665
合計(C)	885	885	885	885	885	885	885	885	885
割合	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤	38.2%	9.8%	16.4%	24.4%	24.9%	16.6%	0.3%	0.0%	16.6%
2剤	20.7%	1.4%	4.4%	3.5%	12.9%	9.0%	0.0%	0.0%	6.1%
3剤	3.6%	0.0%	0.0%	0.3%	1.6%	6.9%	0.0%	0.0%	1.2%
4剤	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	2.3%	0.0%	0.0%	0.2%
5剤	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.3%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
処方無し	36.6%	88.8%	79.2%	71.8%	60.6%	64.7%	99.7%	100.0%	75.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合(C-B)/C	63.4%	11.2%	20.8%	28.2%	39.4%	35.3%	0.3%	0.0%	24.9%
単剤割合A/(C-B)	60.2%	87.9%	78.8%	86.4%	63.0%	47.1%	100.0%	-	66.8%

図 18 F7 処方薬剤種類数グラフ



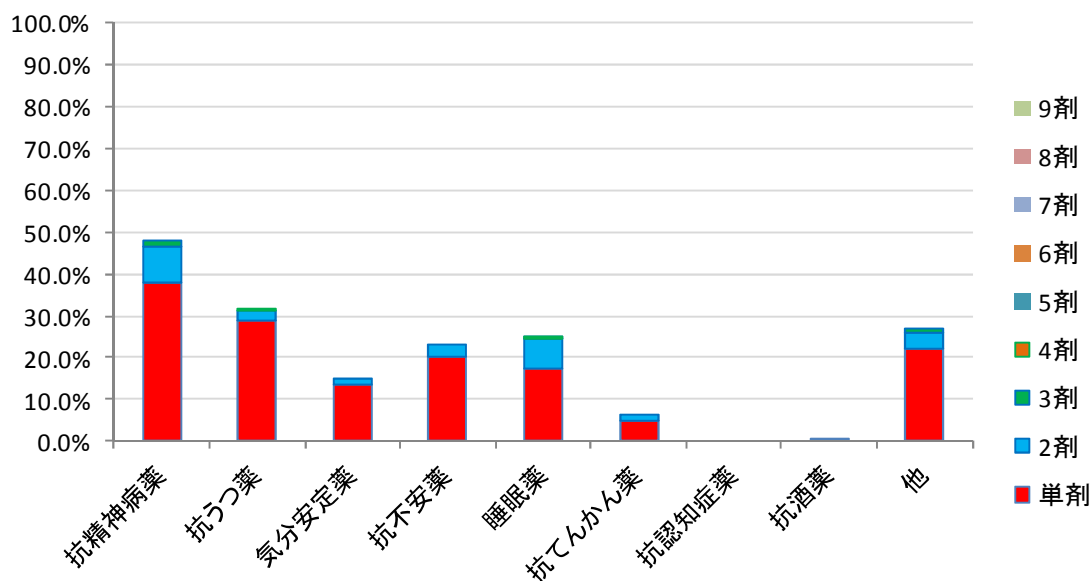
## (9) F8

抗精神病薬が 47.9%で処方され、その単剤割合は 79.0%である。以下、処方割合が高い順に抗うつ薬が 31.6%、睡眠薬が 25.0%、抗不安薬が 23.0%、気分安定薬が 14.8%と続き、抗てんかん薬、抗酒薬はいずれも 10%に満たない。抗認知症薬の処方は無かった。

表 16 F8 処方薬剤種類数

件数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤(A)	207	158	75	111	96	26	0	1	121
2剤	48	14	6	15	37	8	0	0	22
3剤	7	0	0	0	2	0	0	0	3
4剤	0	1	0	0	2	0	0	0	0
5剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処方無し(B)	285	374	466	421	410	513	547	546	401
合計(C)	547	547	547	547	547	547	547	547	547
割合	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤	37.8%	28.9%	13.7%	20.3%	17.6%	4.8%	0.0%	0.2%	22.1%
2剤	8.8%	2.6%	1.1%	2.7%	6.8%	1.5%	0.0%	0.0%	4.0%
3剤	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
4剤	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し	52.1%	68.4%	85.2%	77.0%	75.0%	93.8%	100.0%	99.8%	73.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合(C-B)/C	47.9%	31.6%	14.8%	23.0%	25.0%	6.2%	0.0%	0.2%	26.7%
単剤割合A/(C-B)	79.0%	91.3%	92.6%	88.1%	70.1%	76.5%	-	100.0%	82.9%

図 19 F8 処方薬剤種類数グラフ



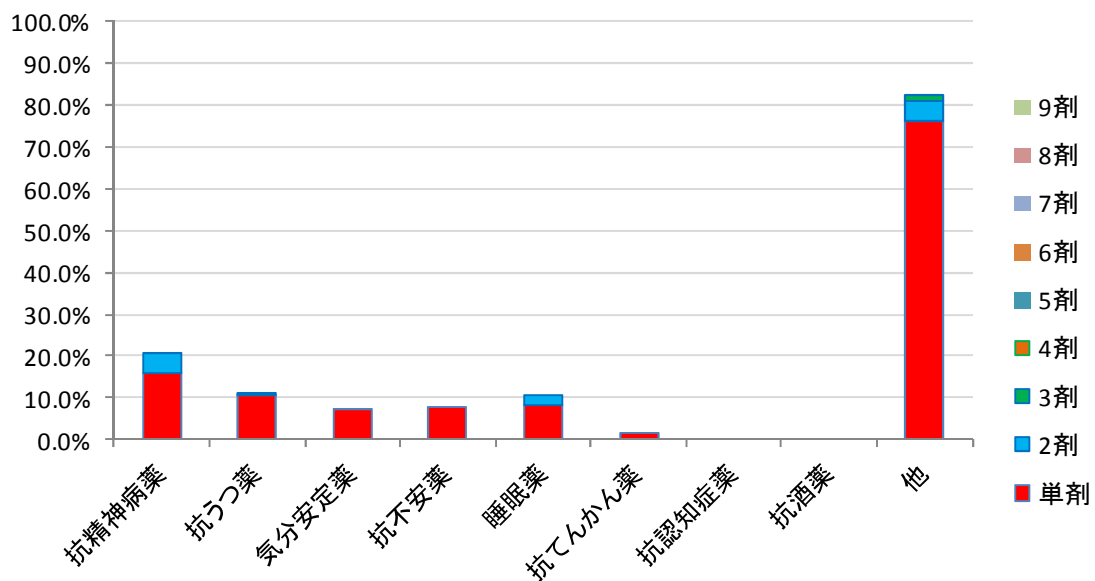
## (10) F9

その他が 82.5%で処方され、その単剤割合は 92.3%である。その他の ( ) 内の具体的な薬剤名の記載では、一般名塩酸メチルフェニデート、同アトモセチン塩酸塩が散見された。以下、処方割合が高い順に抗精神病薬が 20.6%、抗うつ薬が 11.1%、睡眠薬が 10.6%で続き、抗不安薬、気分安定薬、抗てんかん薬はいずれも 10%に満たない。抗認知症薬、抗酒薬の処方は無かった。

表 17 F9 処方薬剤種類数

件数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤(A)	30	20	14	15	16	3	0	0	144
2剤	9	1	0	0	4	0	0	0	9
3剤	0	0	0	0	0	0	0	0	3
4剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処方無し(B)	150	168	175	174	169	186	189	189	33
合計(C)	189	189	189	189	189	189	189	189	189
割合	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤	15.9%	10.6%	7.4%	7.9%	8.5%	1.6%	0.0%	0.0%	76.2%
2剤	4.8%	0.5%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%
3剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
4剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し	79.4%	88.9%	92.6%	92.1%	89.4%	98.4%	100.0%	100.0%	17.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合(C-B)/C	20.6%	11.1%	7.4%	7.9%	10.6%	1.6%	0.0%	0.0%	82.5%
単剤割合A/(C-B)	76.9%	95.2%	100.0%	100.0%	80.0%	100.0%	-	-	92.3%

図 20 F9 処方薬剤種類数グラフ



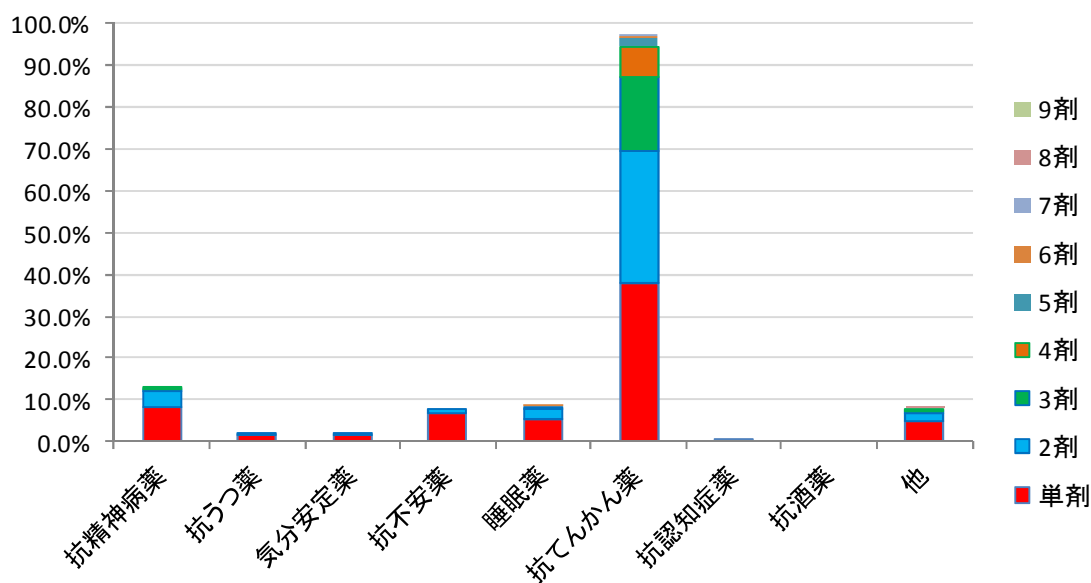
## (11) G40

抗てんかん薬が 97.1%とほぼ全例に処方され、その単剤割合は 39.0%である。下表から算出した抗てんかん薬の延べ処方種類数の合計を、処方無しも含む G40 の全件数 1,505 件で除した平均処方種類数は 1.969 であった。以下、処方割合が高い順に抗精神病薬が 12.6%、睡眠薬が 8.3%、抗不安薬が 7.8%、抗うつ薬が 1.9%、気分安定薬が 1.5%と続く。抗認知症薬は 1 件のみで、抗酒薬の処方は無かった。

表 18 G40 処方薬剤種類数

件数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤(A)	125	26	22	104	80	570	1	0	74
2剤	55	2	1	13	37	473	0	0	26
3剤	9	0	0	0	7	271	0	0	11
4剤	1	0	0	0	0	108	0	0	6
5剤	0	0	0	0	0	33	0	0	3
6剤	0	0	0	0	1	4	0	0	2
7剤	0	0	0	0	0	2	0	0	1
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	1
9剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処方無し(B)	1315	1477	1482	1388	1380	44	1504	1505	1381
合計(C)	1505	1505	1505	1505	1505	1505	1505	1505	1505
割合	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤	8.3%	1.7%	1.5%	6.9%	5.3%	37.9%	0.1%	0.0%	4.9%
2剤	3.7%	0.1%	0.1%	0.9%	2.5%	31.4%	0.0%	0.0%	1.7%
3剤	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	18.0%	0.0%	0.0%	0.7%
4剤	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.2%	0.0%	0.0%	0.4%
5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.2%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
9剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し	87.4%	98.1%	98.5%	92.2%	91.7%	2.9%	99.9%	100.0%	91.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合(C-B)/C	12.6%	1.9%	1.5%	7.8%	8.3%	97.1%	0.1%	0.0%	8.2%
単剤割合A/(C-B)	65.8%	92.9%	95.7%	88.9%	64.0%	39.0%	100.0%	-	59.7%

図 21 G40 処方薬剤種類数グラフ



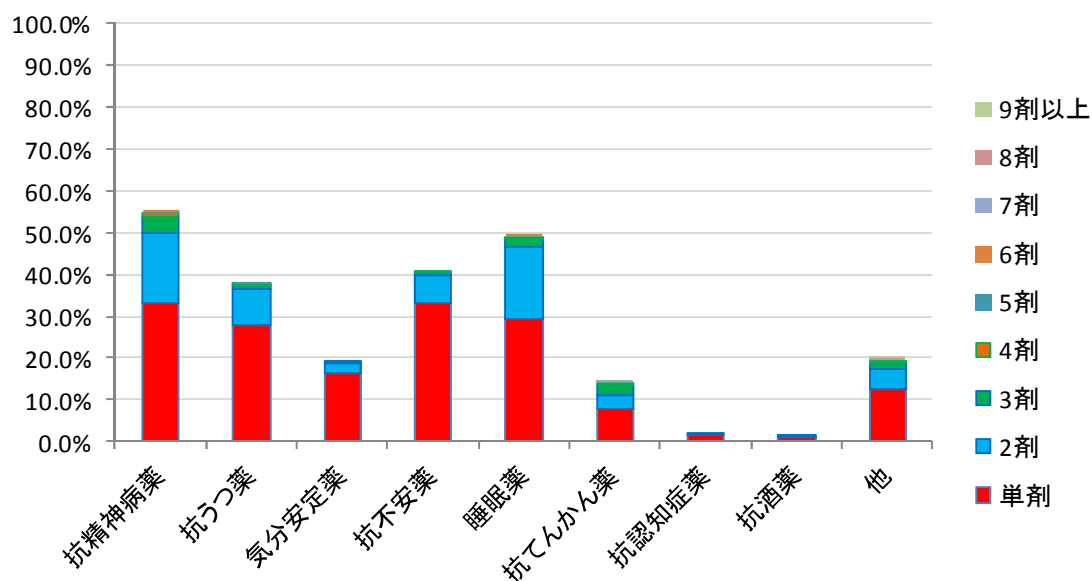
(12) 全疾病分類合計

全疾病分類の合計では抗精神病薬の処方割合が最も高く 54.7%、睡眠薬がそれに次いで 49.1%、以下、抗不安薬の 40.3%、抗うつ薬の 37.6%と続く。以上 4 剤の処方割合が 30%を超えているが、それ以外は気分安定薬 19.1%、抗てんかん薬 14.4%といずれも 20%に満たない。抗認知症薬は 1.7%、抗酒薬は 1.0%であった。

表 19 全疾病分類処方薬剤種類数

件数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤(A)	5954	5008	2886	5947	5207	1365	250	149	2265
2剤	2955	1504	504	1204	3118	662	55	30	834
3剤	671	190	16	45	362	358	0	0	230
4剤	159	8	0	5	69	135	0	0	116
5剤	38	3	0	0	14	37	0	0	44
6剤	6	0	0	0	4	7	0	0	22
7剤	0	0	0	0	0	2	0	0	11
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	3
9剤以上	0	0	0	0	0	0	0	0	11
処方無し(B)	8089	11159	14466	10671	9098	15306	17567	17693	14336
合計(C)	17872	17872	17872	17872	17872	17872	17872	17872	17872
割合	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
単剤	33.3%	28.0%	16.1%	33.3%	29.1%	7.6%	1.4%	0.8%	12.7%
2剤	16.5%	8.4%	2.8%	6.7%	17.4%	3.7%	0.3%	0.2%	4.7%
3剤	3.8%	1.1%	0.1%	0.3%	2.0%	2.0%	0.0%	0.0%	1.3%
4剤	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.8%	0.0%	0.0%	0.6%
5剤	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
処方無し	45.3%	62.4%	80.9%	59.7%	50.9%	85.6%	98.3%	99.0%	80.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合(C-B)/C	54.7%	37.6%	19.1%	40.3%	49.1%	14.4%	1.7%	1.0%	19.8%
単剤割合A/(C-B)	60.9%	74.6%	84.7%	82.6%	59.3%	53.2%	82.0%	83.2%	64.1%

図 22 全疾病分類処方薬剤種類数グラフ



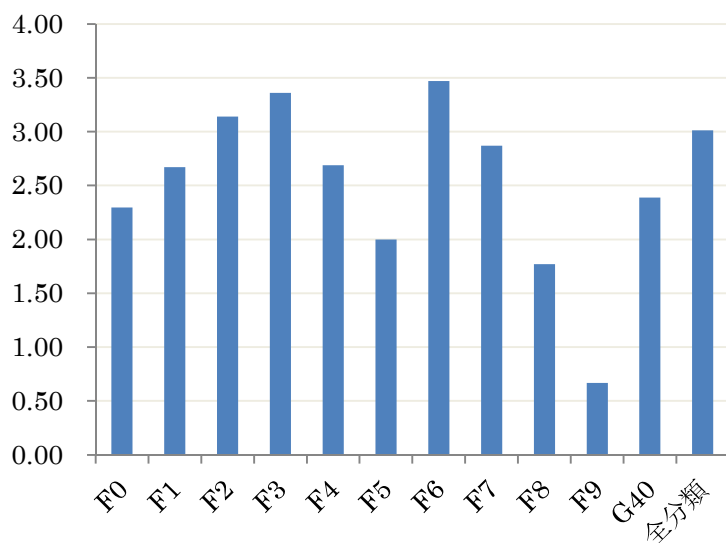
(13) 疾病分類別向精神薬平均処方数

向精神薬8分類（抗精神病薬～抗酒薬）の処方種類数の合計を件数で除して、疾病分類別に平均処方数を求めた。F6が3.47と最も多く、以下F3、F2までが3以上であった。F9は0.67で最も少ない。件数が合計で全体の3分の2を上回るF3、F2がいずれも3を上回っており、全疾病分類の平均処方数も3をわずかに上回った。

表 20 疾病分類別向精神薬平均処方数

疾病分類	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40	全分類
向精神薬平均処方数	2.30	2.67	3.14	3.36	2.69	2.00	3.47	2.87	1.77	0.67	2.39	3.01
件数	515	347	6262	6295	1080	60	187	885	547	189	1505	17872

図 23 疾病分類別向精神薬平均処方数グラフ



### (14) 処方パターンの類型化

各疾病分類の薬剤処方パターンにはある程度の共通性が見られる。最も処方有り件数（下表の「数」）の多い薬剤を主剤とし、それを1とした場合の他の薬剤分類の処方有り件数の比（下表の「比」、主剤を意味する1.00を灰色枠で表示）を算出し、それを元にやや恣意的ではあるが以下の5パターンへの分類を試みた。

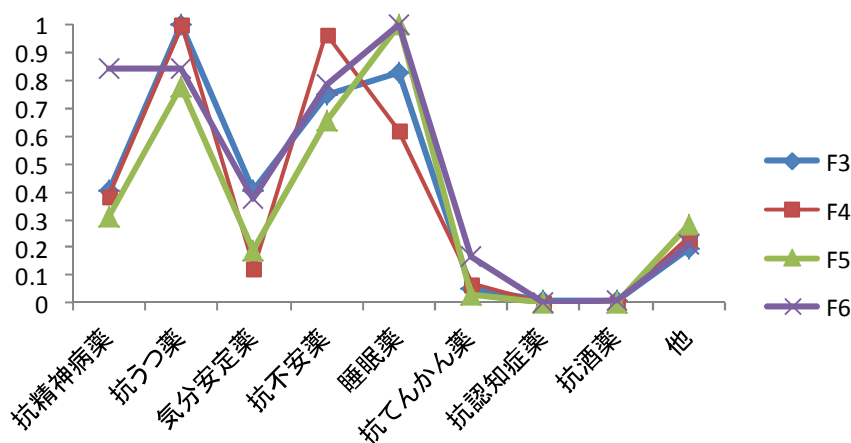
表 21 疾病分類別薬剤分類別処方有り件数及び比

数	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
F0	201	87	55	106	150	101	224	2	165
F1	108	98	18	124	197	24	6	133	76
F2	6145	653	982	2113	3304	302	27	9	1508
F3	1883	4687	1905	3517	3879	258	44	33	934
F4	281	739	92	716	459	50	0	0	172
F5	10	25	6	21	32	1	0	0	9
F6	103	103	46	96	122	20	0	1	26
F7	561	99	184	250	349	312	3	0	220
F8	262	173	81	126	137	34	0	1	146
F9	39	21	14	15	20	3	0	0	156
G40	190	28	23	117	125	1461	1	0	124
比	抗精神病薬	抗うつ薬	気分安定薬	抗不安薬	睡眠薬	抗てんかん薬	抗認知症薬	抗酒薬	他
F0	0.90	0.39	0.25	0.47	0.67	0.45	1.00	0.01	0.74
F1	0.55	0.50	0.09	0.63	1.00	0.12	0.03	0.68	0.39
F2	1.00	0.11	0.16	0.34	0.54	0.05	0.00	0.00	0.25
F3	0.40	1.00	0.41	0.75	0.83	0.06	0.01	0.01	0.20
F4	0.38	1.00	0.12	0.97	0.62	0.07	0.00	0.00	0.23
F5	0.31	0.78	0.19	0.66	1.00	0.03	0.00	0.00	0.28
F6	0.84	0.84	0.38	0.79	1.00	0.16	0.00	0.01	0.21
F7	1.00	0.18	0.33	0.45	0.62	0.56	0.01	0.00	0.39
F8	1.00	0.66	0.31	0.48	0.52	0.13	0.00	0.00	0.56
F9	0.25	0.13	0.09	0.10	0.13	0.02	0.00	0.00	1.00
G40	0.13	0.02	0.02	0.08	0.09	1.00	0.00	0.00	0.08

#### ① 抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬を主とする処方パターン (F3、F4、F5、F6)

抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬のいずれかが主剤となり、他の2者の処方も多いパターンである。加えて疾病分類によっては抗精神病薬、気分安定薬も多く処方されている。

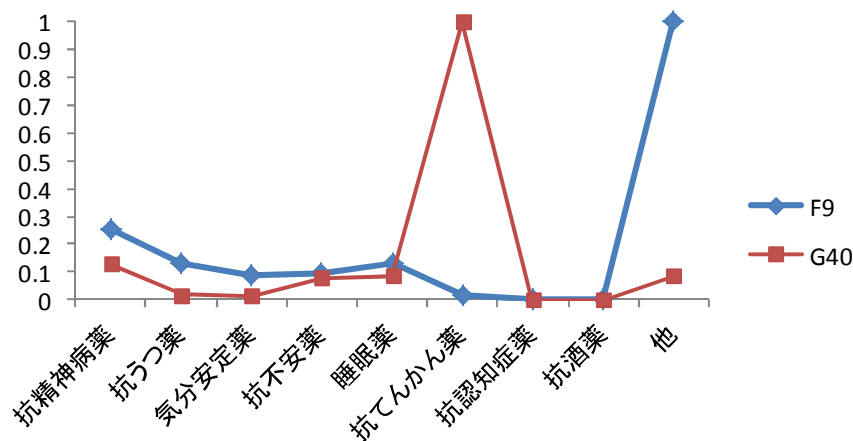
図 24 抗うつ薬、抗不安薬を主とする処方パターン



## ② 疾病特異性が高い薬剤を主とする処方パターン (F9、G40)

疾病特異性が高い主剤が処方されているか、処方されていると推定され、それ以外の薬剤の処方は少ないパターンである。なお、F9の「その他」は（）内の具体的な薬剤名として一般名塩酸メチルフェニデート、または同アトモセチン塩酸塩が記されたものが多く、特に記載が無かったものも多くはそのいずれかと推定した。

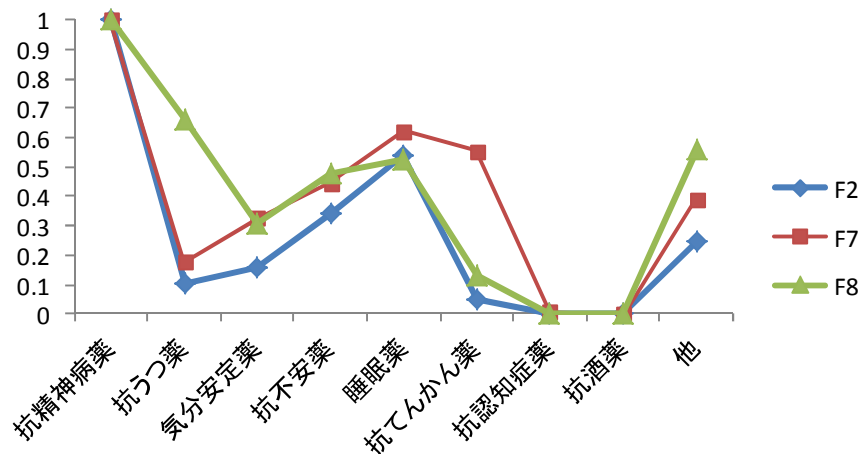
図 25 疾病特異性が高い薬剤を主とする処方パターン



## ③ 抗精神病薬を主とする処方パターン (F2、F7、F8)

抗精神病薬を主剤とするパターンである。抗精神病薬以外では睡眠薬、F8で抗うつ薬と「その他」、F7で抗てんかん薬、抗不安薬の処方も多い。

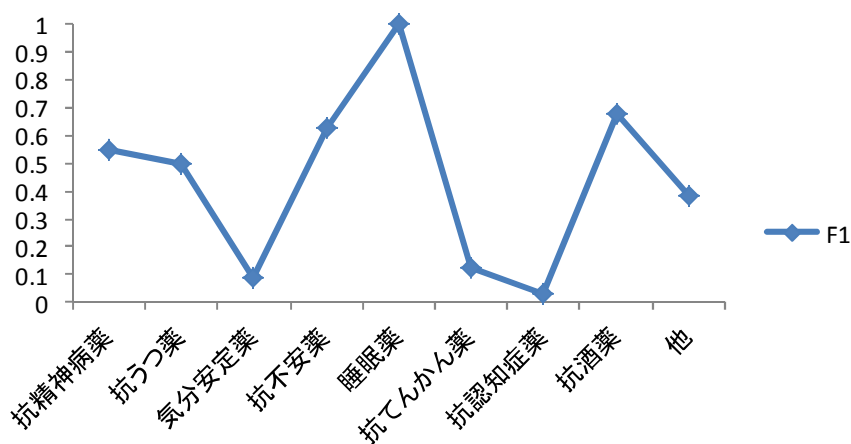
図 26 抗精神病薬を主とする処方パターン



④ 睡眠薬、抗酒薬、抗精神病薬を主とする処方パターン(F1)

F1は睡眠薬が主剤だが抗酒薬、抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬がそれに次いで多く処方され、他のいずれのパターンとも異なる。

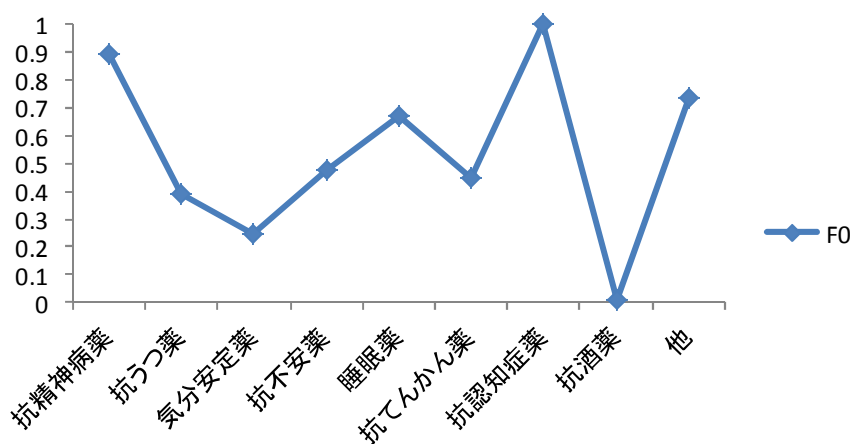
図 27 睡眠薬、抗酒薬、抗精神病薬を主とする処方パターン(F1)



⑤ 抗精神病薬、抗認知症薬が並立する処方パターン(F0)

F0は抗認知症薬について抗精神病薬がほぼ同じ割合で処方されているという点で、やはり他のいずれのパターンとも異なる。「その他」薬、睡眠薬の処方も多い。

図 28 抗精神病薬、抗認知症薬が並立する処方パターン(F0)



### 3. 処方薬剤種類数に関するクロス集計

疾病分類と薬剤の代表的な組み合わせ2通り（F2の抗精神病薬、F3の抗うつ薬）、全疾病分類の抗不安薬・睡眠薬、計4通りの処方について、年齢階級、性、受給にかかる判定会議開催時期（四半期別）との間でクロス集計を行った。さらに、全疾病分類の処方割合上位4分類（抗精神病薬、睡眠薬、抗不安薬、抗うつ薬）相互の組み合わせ6通りについて併用状況を集計した。

#### (1) 年齢階級別処方薬剤種類数

##### ① F2の抗精神病薬

処方割合は全年齢階級で95%を超えている。単剤割合は69歳以下では加齢に伴い低下するか横ばいだが、70歳以上で上昇に転じる（次ページ図30）。

表22 年齢階級別F2の抗精神病薬処方種類数

件数	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
単剤(A)	47	326	633	739	677	596	165	36	3219
2剤	11	147	381	532	526	476	93	12	2178
3剤	2	37	92	174	131	107	19	4	566
4剤	0	7	23	39	36	30	5	0	140
5剤	0	0	5	10	10	11	0	0	36
6剤	0	0	3	1	1	0	1	0	6
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処方無し(B)	2	19	28	23	18	18	8	1	117
合計(C)	62	536	1165	1518	1399	1238	291	53	6262
割合	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
単剤	75.8%	60.8%	54.3%	48.7%	48.4%	48.1%	56.7%	67.9%	51.4%
2剤	17.7%	27.4%	32.7%	35.0%	37.6%	38.4%	32.0%	22.6%	34.8%
3剤	3.2%	6.9%	7.9%	11.5%	9.4%	8.6%	6.5%	7.5%	9.0%
4剤	0.0%	1.3%	2.0%	2.6%	2.6%	2.4%	1.7%	0.0%	2.2%
5剤	0.0%	0.0%	0.4%	0.7%	0.7%	0.9%	0.0%	0.0%	0.6%
6剤	0.0%	0.0%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.3%	0.0%	0.1%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し	3.2%	3.5%	2.4%	1.5%	1.3%	1.5%	2.7%	1.9%	1.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合((C-B)/C)	96.8%	96.5%	97.6%	98.5%	98.7%	98.5%	97.3%	98.1%	98.1%
単剤割合(A/(C-B))	78.3%	63.1%	55.7%	49.4%	49.0%	48.9%	58.3%	69.2%	52.4%

図 29 年齢階級別 F2 の抗精神病薬処方種類数グラフ

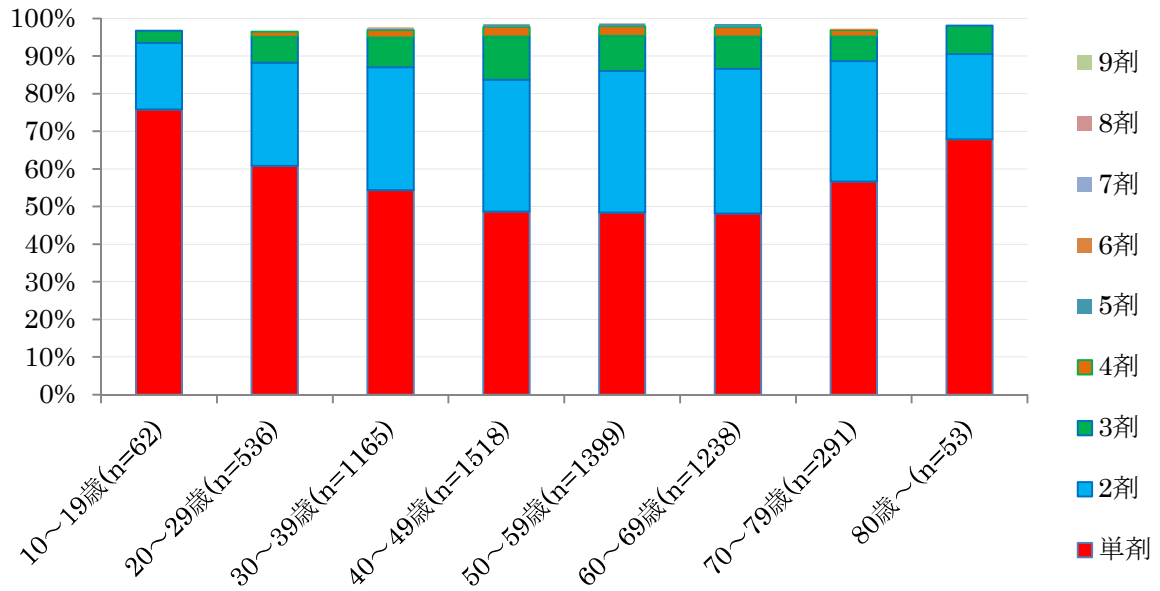
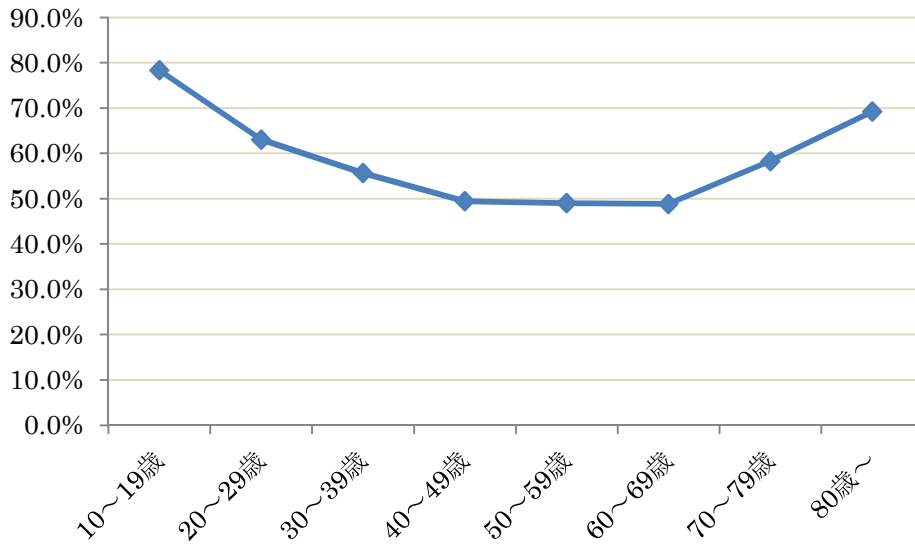


図 30 年齢階級別 F2 の抗精神病薬単剤割合



## ② F3 の抗うつ薬

処方割合は40代が最も高い。単剤割合は60代までは加齢に伴い低下するが、70歳以上は上昇に転じる（図32）。

表23 年齢階級別F3の抗うつ薬処方種類数

件数	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
単剤(A)	27	307	677	802	662	605	152	35	3267
2剤	6	97	219	312	269	257	63	12	1235
3剤	0	14	31	54	41	31	4	1	176
4剤	0	0	0	4	1	1	0	0	6
5剤	0	0	0	0	1	1	1	0	3
6剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処方無し(B)	15	136	273	312	377	364	110	21	1608
合計(C)	48	554	1200	1484	1351	1259	330	69	6295
割合	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
単剤	56.3%	55.4%	56.4%	54.0%	49.0%	48.1%	46.1%	50.7%	51.9%
2剤	12.5%	17.5%	18.3%	21.0%	19.9%	20.4%	19.1%	17.4%	19.6%
3剤	0.0%	2.5%	2.6%	3.6%	3.0%	2.5%	1.2%	1.4%	2.8%
4剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し	31.3%	24.5%	22.8%	21.0%	27.9%	28.9%	33.3%	30.4%	25.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合((C-B)/C)	68.8%	75.5%	77.3%	79.0%	72.1%	71.1%	66.7%	69.6%	74.5%
単剤割合(A/(C-B))	81.8%	73.4%	73.0%	68.4%	68.0%	67.6%	69.1%	72.9%	69.7%

図31 年齢階級別F3の抗うつ薬処方種類数グラフ

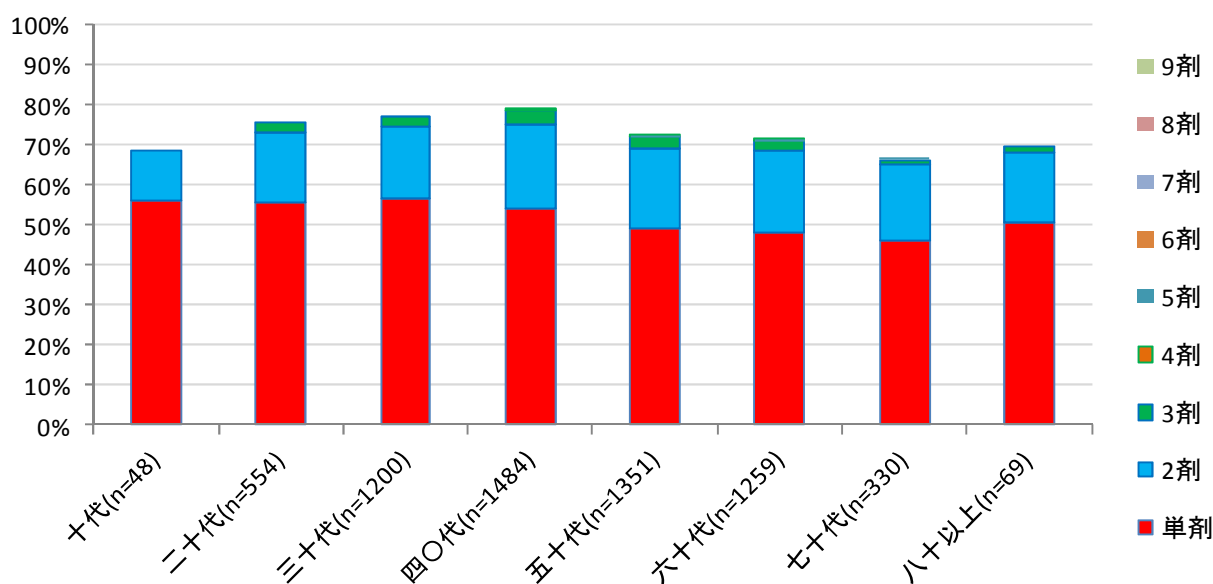
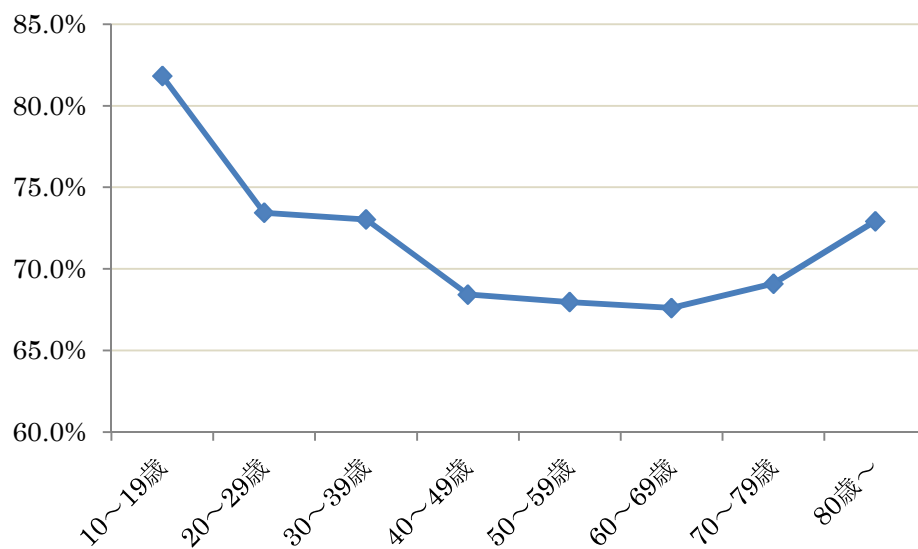


図 32 年齢階級別 F3 の抗うつ薬単剤割合 (60~85%の区間を拡大して表示)



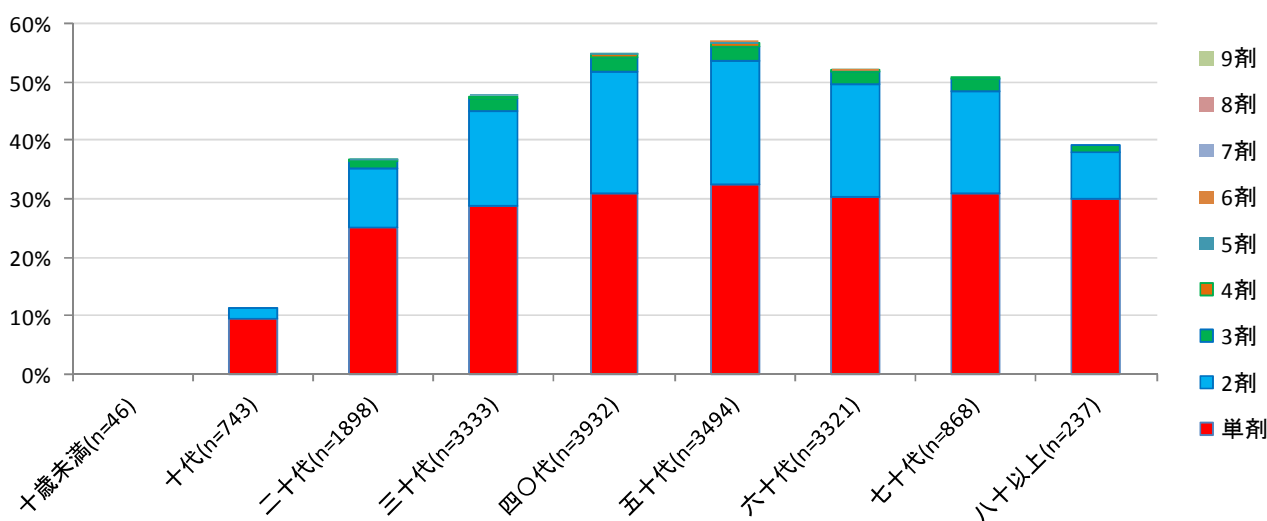
### ③ 全疾病分類の睡眠薬

睡眠薬の年齢階級別処方種類数グラフ（図 33）は 50 代、40 代をピークとする単峰性で、2 剤以上処方の割合は 50 代、40 代、60 代で 20%を超えている。全年齢階級合計では 3 剤以上の処方箋は 2.5%で、4 剤以上の処方箋は 0.5%である。単剤割合は 10 代と 80 歳以上で 70%を超え、30 代から 70 代は 50~70%で推移する。

表 24 年齢階級別全疾病分類の睡眠薬処方種類数

件数	0~9歳	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳~	合計
単剤(A)	0	69	476	962	1220	1133	1007	269	71	5207
2剤	0	14	192	543	815	744	641	150	19	3118
3剤	0	0	23	64	101	83	69	19	3	362
4剤	0	0	2	16	21	21	8	1	0	69
5剤	0	0	1	3	4	3	3	0	0	14
6剤	0	0	0	0	0	2	2	0	0	4
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処方無し(B)	46	660	1204	1745	1771	1508	1591	429	144	9098
合計(C)	46	743	1898	3333	3932	3494	3321	868	237	17872
割合	0~9歳	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳~	合計
単剤	0.0%	9.3%	25.1%	28.9%	31.0%	32.4%	30.3%	31.0%	30.0%	29.1%
2剤	0.0%	1.9%	10.1%	16.3%	20.7%	21.3%	19.3%	17.3%	8.0%	17.4%
3剤	0.0%	0.0%	1.2%	1.9%	2.6%	2.4%	2.1%	2.2%	1.3%	2.0%
4剤	0.0%	0.0%	0.1%	0.5%	0.5%	0.6%	0.2%	0.1%	0.0%	0.4%
5剤	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し	100.0%	88.8%	63.4%	52.4%	45.0%	43.2%	47.9%	49.4%	60.8%	50.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合((C-B)/C)	0.0%	11.2%	36.6%	47.6%	55.0%	56.8%	52.1%	50.6%	39.2%	49.1%
単剤割合(A/(C-B))	-	83.1%	68.6%	60.6%	56.5%	57.0%	58.2%	61.3%	76.3%	59.3%

図 33 年齢階級別全疾病分類の睡眠薬処方種類数グラフ



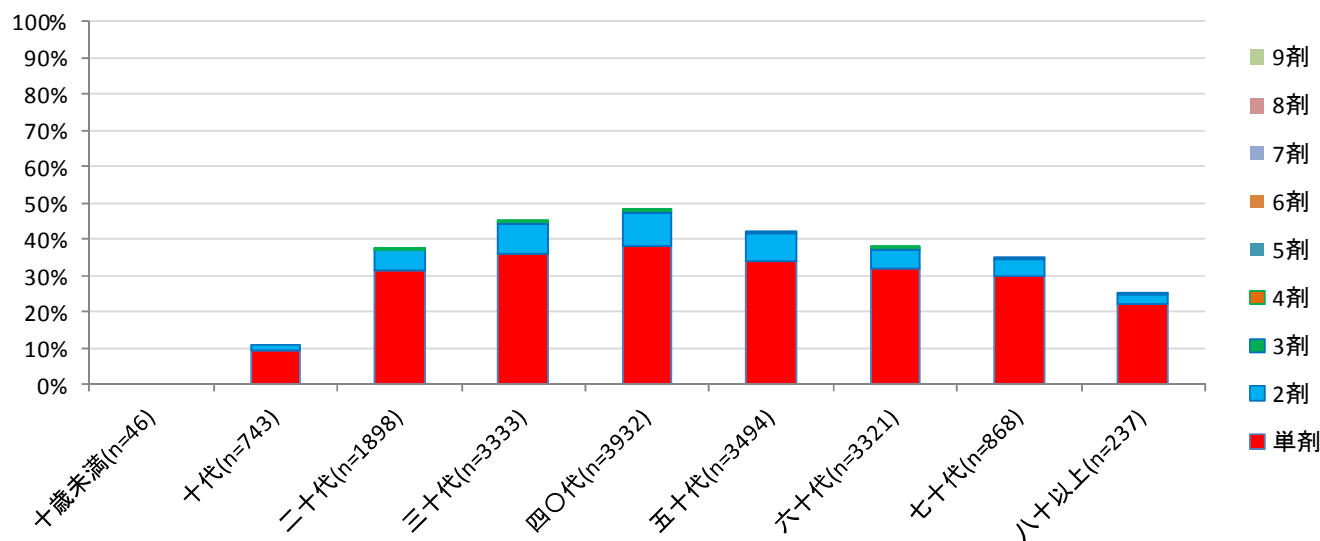
#### ④ 全疾病分類の抗不安薬

抗不安薬の年齢階級別処方種類数グラフは40代をピークとする単峰性である(図34)。睡眠薬と比べ2剤以上の処方は少なく全年齢階級で2剤は10%を下回り、3剤は1%を下回る。4剤以上の処方は無かった。単剤割合は処方があった全年齢階級で80%台である。

表 25 年齢階級別全疾病分類の抗不安薬処方種類数

件数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
単剤(A)	0	70	596	1208	1504	1195	1064	258	52	5947
2剤	0	11	109	261	355	252	170	39	7	1204
3剤	0	0	1	14	12	9	6	2	1	45
4剤	0	0	1	1	2	0	1	0	0	5
5剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
処方無し(B)	46	662	1191	1849	2059	2038	2080	569	177	10671
合計(C)	46	743	1898	3333	3932	3494	3321	868	237	17872
割合	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
単剤	0.0%	9.4%	31.4%	36.2%	38.3%	34.2%	32.0%	29.7%	21.9%	33.3%
2剤	0.0%	1.5%	5.7%	7.8%	9.0%	7.2%	5.1%	4.5%	3.0%	6.7%
3剤	0.0%	0.0%	0.1%	0.4%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%	0.4%	0.3%
4剤	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し	100.0%	89.1%	62.8%	55.5%	52.4%	58.3%	62.6%	65.6%	74.7%	59.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合((C-B)/C)	0.0%	10.9%	37.2%	44.5%	47.6%	41.7%	37.4%	34.4%	25.3%	40.3%
単剤割合(A/(C-B))	-	86.4%	84.3%	81.4%	80.3%	82.1%	85.7%	86.3%	86.7%	82.6%

図 34 年齢階級別全疾病分類の抗不安薬処方種類数グラフ



## (2) 性別処方薬剤種類数

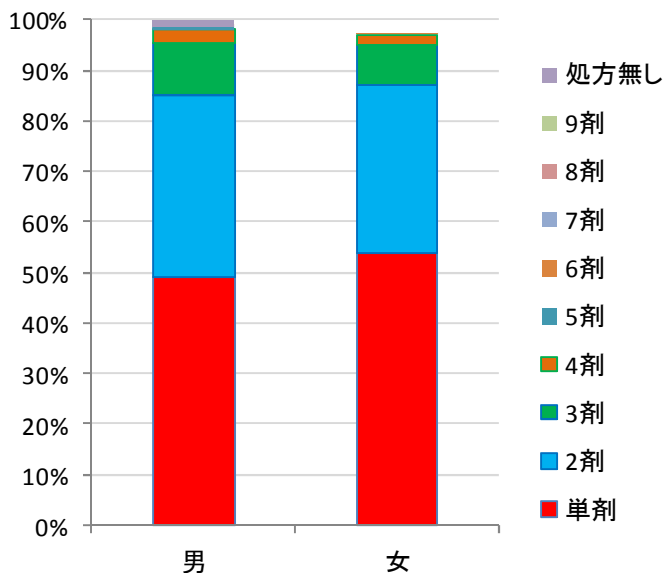
### ① F2 の抗精神病薬

女性は単剤割合が高く、処方無しの割合も高い。

表 26 性別 F2 の抗精神病薬処方種類数

件数	男	女	合計	割合	男	女	合計
単剤(A)	1548	1671	3219	単剤	48.9%	54.0%	51.4%
2剤	1150	1028	2178	2剤	36.3%	33.2%	34.8%
3剤	325	241	566	3剤	10.3%	7.8%	9.0%
4剤	77	63	140	4剤	2.4%	2.0%	2.2%
5剤	25	11	36	5剤	0.8%	0.4%	0.6%
6剤	4	2	6	6剤	0.1%	0.1%	0.1%
7剤	0	0	0	7剤	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0	0	0	8剤	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0	0	0	9剤	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し(B)	36	81	117	処方無し	1.1%	2.6%	1.9%
合計(C)	3165	3097	6262	合計	100.0%	100.0%	100.0%
				処方割合((C-B)/C)	98.9%	97.4%	98.1%
				単剤割合(A/(C-B))	49.5%	55.4%	52.4%

図 35 性別 F2 の抗精神病薬処方種類数グラフ



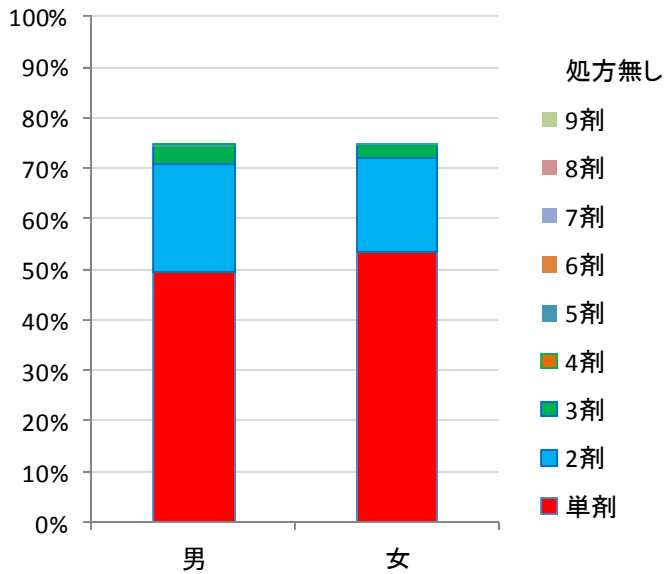
### ② F3 の抗うつ薬

女性で単剤割合が約 5%高いが、それ以外はあきらかな性差は認めない（次ページ図 36）。

表 27 性別 F3 の抗うつ薬処方種類数

件数	男	女	合計	割合	男	女	合計
単剤(A)	1281	1986	3267	単剤	49.5%	53.5%	51.9%
2剤	549	686	1235	2剤	21.2%	18.5%	19.6%
3剤	89	87	176	3剤	3.4%	2.3%	2.8%
4剤	2	4	6	4剤	0.1%	0.1%	0.1%
5剤	1	2	3	5剤	0.0%	0.1%	0.0%
6剤	0	0	0	6剤	0.0%	0.0%	0.0%
7剤	0	0	0	7剤	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0	0	0	8剤	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0	0	0	9剤	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し(B)	664	944	1608	処方無し	25.7%	25.5%	25.5%
合計(C)	2586	3709	6295	合計	100.0%	100.0%	100.0%
				処方割合((C-B)/C)	74.3%	74.5%	74.5%
				単剤割合(A/(C-B))	66.6%	71.8%	69.7%

図 36 性別 F3 の抗うつ薬処方種類数グラフ



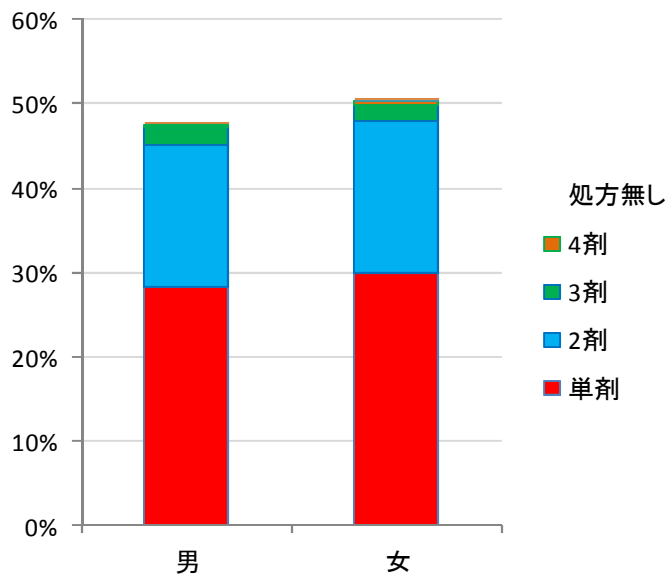
③ 全疾病分類の睡眠薬

女性で処方割合がやや高いが、その差は3%に満たない。単剤割合に性差は認めない。

表 28 性別全疾病分類の睡眠薬処方種類数

件数	男	女	合計	割合	男	女	合計
単剤(A)	2429	2778	5207	単剤	28.4%	29.8%	29.1%
2剤	1435	1683	3118	2剤	16.8%	18.1%	17.4%
3剤	179	183	362	3剤	2.1%	2.0%	2.0%
4剤	31	38	69	4剤	0.4%	0.4%	0.4%
5剤	4	10	14	5剤	0.0%	0.1%	0.1%
6剤	3	1	4	6剤	0.0%	0.0%	0.0%
7剤	0	0	0	7剤	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0	0	0	8剤	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0	0	0	9剤	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し(B)	4481	4617	9098	処方無し	52.3%	49.6%	50.9%
合計(C)	8562	9310	17872	合計	100.0%	100.0%	100.0%
				処方割合((C-B)/C)	47.7%	50.4%	49.1%
				単剤割合(A/(C-B))	59.5%	59.2%	59.3%

図 37 性別全疾病分類の睡眠薬処方種類数グラフ



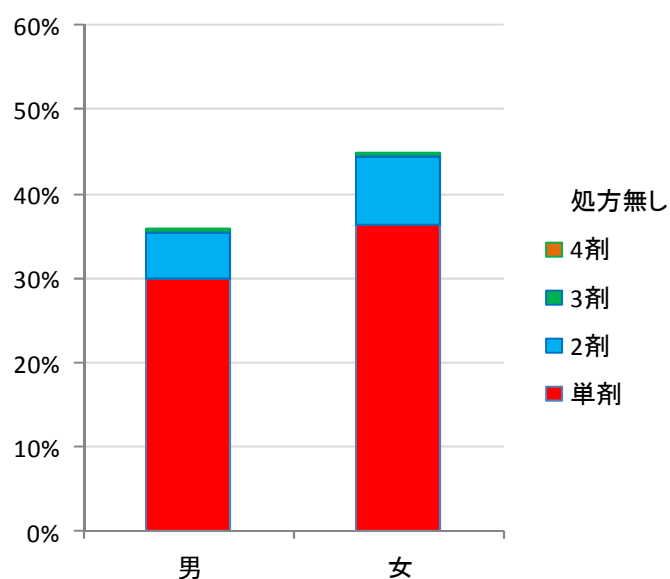
④ 全疾病分類の抗不安薬

女性で処方割合が高く、単剤割合は低い。

表 29 性別全疾病分類の抗不安薬処方種類数

件数	男	女	合計	割合	男	女	合計
単剤(A)	2555	3392	5947	単剤	29.8%	36.4%	33.3%
2剤	470	734	1204	2剤	5.5%	7.9%	6.7%
3剤	17	28	45	3剤	0.2%	0.3%	0.3%
4剤	2	3	5	4剤	0.0%	0.0%	0.0%
5剤	0	0	0	5剤	0.0%	0.0%	0.0%
6剤	0	0	0	6剤	0.0%	0.0%	0.0%
7剤	0	0	0	7剤	0.0%	0.0%	0.0%
8剤	0	0	0	8剤	0.0%	0.0%	0.0%
9剤	0	0	0	9剤	0.0%	0.0%	0.0%
処方無し(B)	5518	5153	10671	処方無し	64.4%	55.3%	59.7%
合計(C)	8562	9310	17872	合計	100.0%	100.0%	100.0%
				処方割合((C-B)/C)	35.6%	44.7%	40.3%
				単剤割合(A/(C-B))	83.9%	81.6%	82.6%

図 38 性別全疾病分類の抗不安薬処方種類数グラフ



### (3) 四半期別処方薬剤種類数

平成26年度の診療報酬改定により外来では原則として抗精神病薬、抗うつ薬の4剤以上、睡眠薬、抗不安薬の3剤以上の処方、処方料、薬剤料等に減算規定が設けられた。半年間の減薬調整期間が設けられたことにより、実質的な施行は平成26年10月1日からとなったが、その前後の処方に変化が認められるか否か、認定にかかる判定会議開催時期の四半期別に集計し比較した。ただし、診断書の記入から判定会議開催までは中央値で40日（平成27年1月判定の479件分、平均値±標準偏差は52.8±69.2日）程度の期間を要することに留意する必要がある。

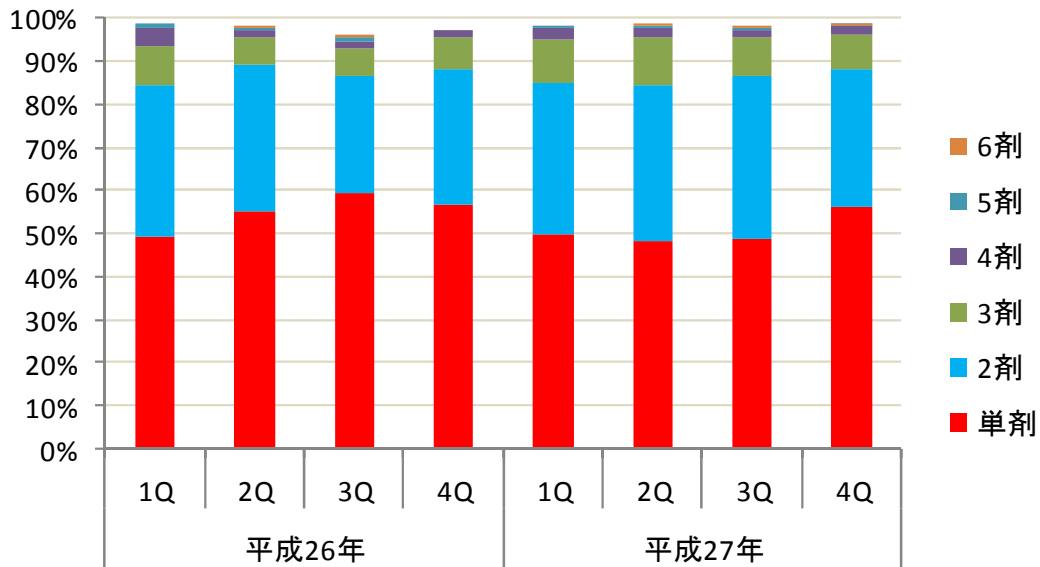
#### ① F2の抗精神病薬

単剤割合は平成26年1Q（1月から3月までの第1四半期、以下同様に2Q、3Q、4Qと略）から3Qにかけて合計で12.5%上昇し、4Qで一転して3.6%低下した後、平成27年1Qと2Qも連続して低下した結果、2Qでは26年1Qとほぼ同様の値となった。その後は再び上昇傾向にある。4剤以上の処方の割合は26年1Qの5.3%から2Qでほぼ半減し、4Qでさらに0.9%低下したが、27年1Qで3.0%に上昇しその後は2%台で推移した。

表 30 四半期別F2の抗精神病薬処方種類数

件数	平成26年				平成27年				計
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
単剤(A)	392	210	207	197	509	580	599	525	3219
2剤	283	130	95	108	358	442	459	303	2178
3剤	72	23	22	25	101	134	114	75	566
4剤	34	6	6	6	27	24	21	16	140
5剤	8	2	2	0	4	10	6	4	36
6剤	0	2	1	0	0	1	1	1	6
4剤以上(再掲)	42	10	9	6	31	35	28	21	182
処方無し(B)	10	7	15	10	20	17	25	13	117
合計(C)	799	380	348	346	1019	1208	1225	937	6262
割合	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	計
単剤	49.1%	55.3%	59.5%	56.9%	50.0%	48.0%	48.9%	56.0%	51.4%
2剤	35.4%	34.2%	27.3%	31.2%	35.1%	36.6%	37.5%	32.3%	34.8%
3剤	9.0%	6.1%	6.3%	7.2%	9.9%	11.1%	9.3%	8.0%	9.0%
4剤	4.3%	1.6%	1.7%	1.7%	2.6%	2.0%	1.7%	1.7%	2.2%
5剤	1.0%	0.5%	0.6%	0.0%	0.4%	0.8%	0.5%	0.4%	0.6%
6剤	0.0%	0.5%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
4剤以上(再掲)	5.3%	2.6%	2.6%	1.7%	3.0%	2.9%	2.3%	2.2%	2.9%
処方無し	1.3%	1.8%	4.3%	2.9%	2.0%	1.4%	2.0%	1.4%	1.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合((C-B)/C)	98.7%	98.2%	95.7%	97.1%	98.0%	98.6%	98.0%	98.6%	98.1%
単剤割合(A/(C-B))	49.7%	56.3%	62.2%	58.6%	51.0%	48.7%	49.9%	56.8%	52.4%

図 39 四半期別 F2 の抗精神病薬処方種類数グラフ



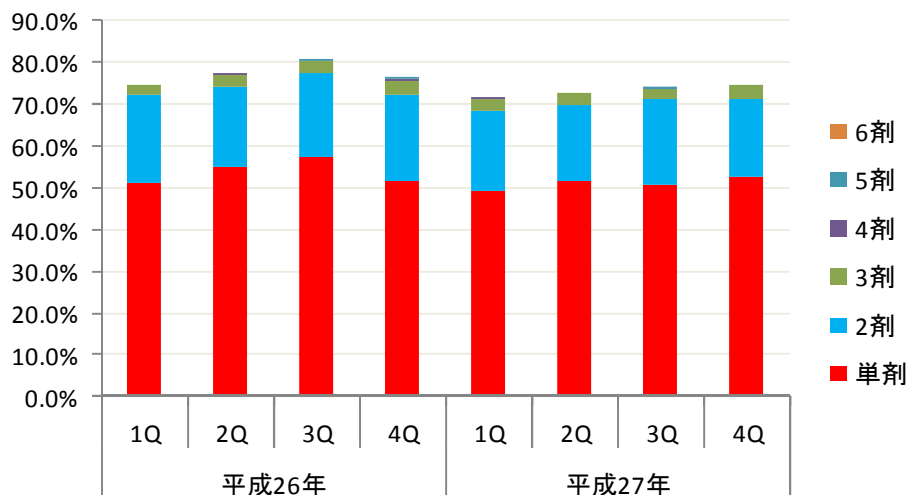
② F3 の抗うつ薬

処方割合は26年1Qから3Qにかけて漸増したが、4Qで低下し平成27年は平成26年1Qと同等の水準で推移した。4剤以上の処方の割合は全期間を通じ0.1%と少なく、増減は偶然変動の影響を考慮する必要がある。

表 31 四半期別 F3 の抗うつ薬処方種類数

件数	平成26年				平成27年				計
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
単剤(A)	412	293	276	257	416	542	596	475	3267
2剤	170	101	97	104	163	190	239	171	1235
3剤	17	16	15	16	21	32	29	30	176
4剤	0	1	0	3	1	0	1	0	6
5剤	0	0	1	1	0	0	1	0	3
6剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4剤以上(再掲)	0	1	1	4	1	0	2	0	9
処方無し(B)	205	121	94	118	244	288	309	229	1608
合計(C)	804	532	483	499	845	1052	1175	905	6295
割合	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	計
単剤	51.2%	55.1%	57.1%	51.5%	49.2%	51.5%	50.7%	52.5%	51.9%
2剤	21.1%	19.0%	20.1%	20.8%	19.3%	18.1%	20.3%	18.9%	19.6%
3剤	2.1%	3.0%	3.1%	3.2%	2.5%	3.0%	2.5%	3.3%	2.8%
4剤	0.0%	0.2%	0.0%	0.6%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%
5剤	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4剤以上(再掲)	0.0%	0.2%	0.2%	0.8%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
処方無し	25.5%	22.7%	19.5%	23.6%	28.9%	27.4%	26.3%	25.3%	25.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合((C-B)/C)	74.5%	77.3%	80.5%	76.4%	71.1%	72.6%	73.7%	74.7%	74.5%
単剤割合(A/(C-B))	68.8%	71.3%	71.0%	67.5%	69.2%	70.9%	68.8%	70.3%	69.7%

図 40 四半期別 F3 の抗うつ薬処方種類数グラフ



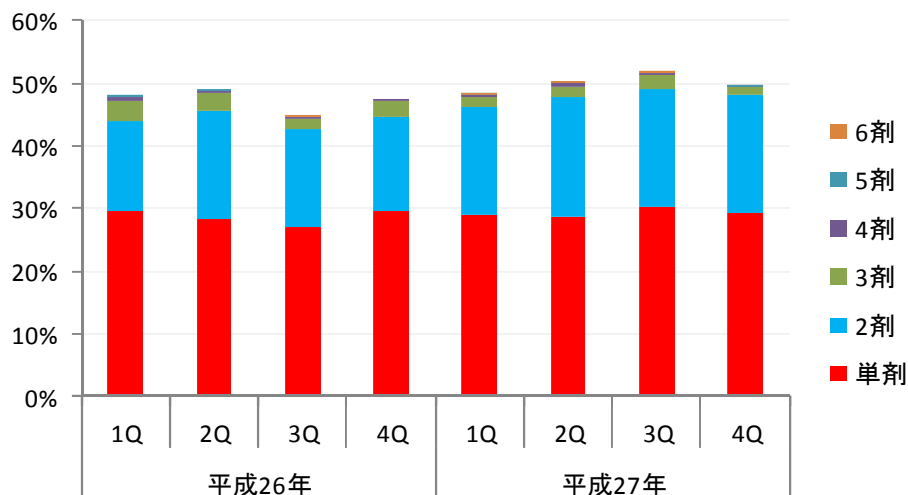
③ 全疾病分類の睡眠薬

処方割合は平成 26 年 3Q で 45%以下まで低下したが、4Q で 1Q と同様の割合に戻り、平成 27 年は 50%前後で推移した。3 剤以上の処方の割合は平成 26 年 2Q で低下した後、3Q でさらに低下し 1Q の 2 分の 1 以下になったが、4Q では上昇に転じた。平成 27 年は 3Q まで 2%台で推移していたが 4Q で 1.5%まで低下した。

表 32 四半期別全疾病分類の睡眠薬処方種類数

件数	平成26年				平成27年				計
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
単剤(A)	683	382	334	363	788	925	997	735	5207
2剤	331	233	195	183	468	610	620	478	3118
3剤	76	37	18	32	39	58	73	29	362
4剤	14	6	5	3	10	13	12	6	69
5剤	4	2	0	0	3	3	0	2	14
6剤	0	0	1	0	1	1	1	0	4
3剤以上(再掲)	94	45	24	35	53	75	86	37	449
処方無し(B)	1204	687	684	644	1407	1604	1597	1271	9098
合計(C)	2312	1347	1237	1225	2716	3214	3300	2521	17872
割合	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	計
単剤	29.5%	28.4%	27.0%	29.6%	29.0%	28.8%	30.2%	29.2%	29.1%
2剤	14.3%	17.3%	15.8%	14.9%	17.2%	19.0%	18.8%	19.0%	17.4%
3剤	3.3%	2.7%	1.5%	2.6%	1.4%	1.8%	2.2%	1.2%	2.0%
4剤	0.6%	0.4%	0.4%	0.2%	0.4%	0.4%	0.4%	0.2%	0.4%
5剤	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%
6剤	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3剤以上(再掲)	4.1%	3.3%	1.9%	2.9%	2.0%	2.3%	2.6%	1.5%	2.5%
処方無し	52.1%	51.0%	55.3%	52.6%	51.8%	49.9%	48.4%	50.4%	50.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合((C-B)/C)	47.9%	49.0%	44.7%	47.4%	48.2%	50.1%	51.6%	49.6%	49.1%
単剤割合(A/(C-B))	61.6%	57.9%	60.4%	62.5%	60.2%	57.5%	58.5%	58.8%	59.3%

図 41 四半期別全疾病分類の睡眠薬処方種類数グラフ



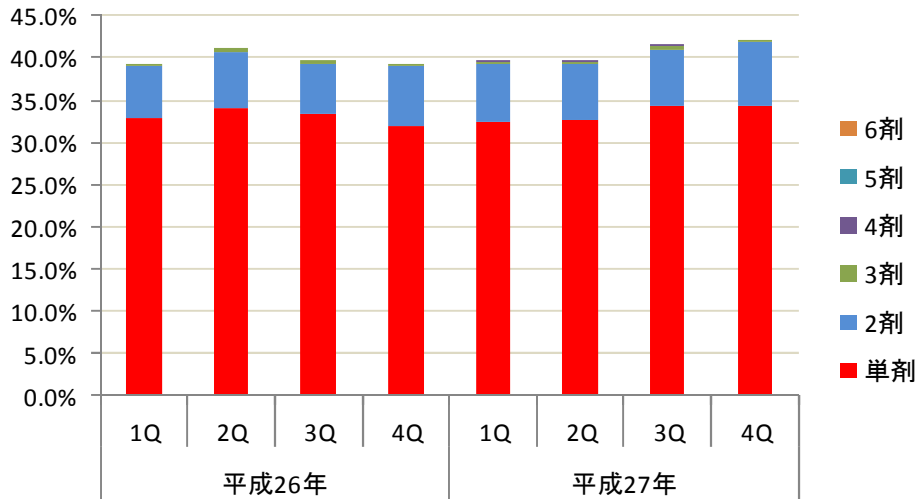
④ 全疾病分類の抗不安薬

処方割合、単剤割合ともに変動は少ない(表 33、図 42)。全期間を通じ4剤以上はなく、3剤も平均で0.3%と少ない。3剤以上の割合は平成27年1Qでいったん低下した後、2Qには元の水準に戻っているが、件数が少ないため偶然変動の影響も考慮する必要がある。

表 33 四半期別全疾病分類の抗不安薬処方種類数

件数	平成26年				平成27年				計
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
単剤(A)	760	460	413	391	877	1048	1131	867	5947
2剤	142	87	74	86	190	215	223	187	1204
3剤	7	6	4	4	3	6	9	6	45
4剤	0	0	0	0	1	3	1	0	5
5剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6剤	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3剤以上(再掲)	7	6	4	4	4	9	10	6	50
処方無し(B)	1403	794	746	744	1645	1942	1936	1461	10671
合計(C)	2312	1347	1237	1225	2716	3214	3300	2521	17872
割合	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	計
単剤	32.9%	34.1%	33.4%	31.9%	32.3%	32.6%	34.3%	34.4%	33.3%
2剤	6.1%	6.5%	6.0%	7.0%	7.0%	6.7%	6.8%	7.4%	6.7%
3剤	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%	0.1%	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%
4剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3剤以上(再掲)	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%	0.1%	0.3%	0.3%	0.2%	0.3%
処方無し	60.7%	58.9%	60.3%	60.7%	60.6%	60.4%	58.7%	58.0%	59.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
処方割合((C-B)/C)	39.3%	41.1%	39.7%	39.3%	39.4%	39.6%	41.3%	42.0%	40.3%
単剤割合(A/(C-B))	83.6%	83.2%	84.1%	81.3%	81.9%	82.4%	82.9%	81.8%	82.6%

図 42 四半期別全疾病分類の抗不安薬処方種類数グラフ



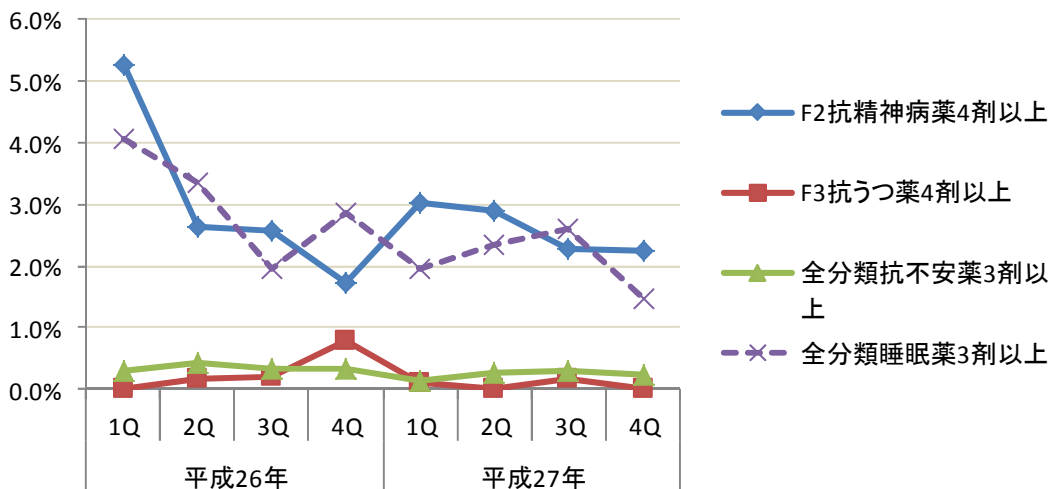
⑤ 減算対象種類数以上の処方割合（再掲）

F2 への 4 剤以上の抗精神病薬、F3 への 4 剤以上の抗うつ薬、全疾病分類への 3 剤以上の抗不安薬または睡眠薬の処方割合（いずれも再掲）について、四半期別はその推移を一覧表にまとめるとともにグラフ化した。F2 への抗精神病薬の当該割合は平成 26 年の 1Q から 4Q にかけておおむね減少が見られたが、平成 27 年中は 2～3%で推移した。全疾病分類への睡眠薬は増減を繰り返しつつも全期間を通じゆるやかな減少傾向を認めた。抗うつ薬、抗不安薬については減算対象種類数以上の処方件数は少なく偶然変動の影響も考慮する必要がある。

表 34 四半期別減算対象種類数以上の処方割合

	平成26年				平成27年			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
F2抗精神病薬4剤以上	5.3%	2.6%	2.6%	1.7%	3.0%	2.9%	2.3%	2.2%
F3抗うつ薬4剤以上	0.0%	0.2%	0.2%	0.8%	0.1%	0.0%	0.2%	0.0%
全分類睡眠薬3剤以上	4.1%	3.3%	1.9%	2.9%	2.0%	2.3%	2.6%	1.5%
全分類抗不安薬3剤以上	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%	0.1%	0.3%	0.3%	0.2%

図 43 四半期別減算対象種類数以上の処方割合グラフ



(4) 抗精神病薬、睡眠薬、抗うつ薬、抗不安薬の併用状況

向精神薬8分類のうち処方割合上位4分類相互の組み合わせ計6通りについて、全疾病分類を対象に併用状況を集計し、件数及び割合を算出した。

表 35 抗精神病薬×抗うつ薬併用件数及び割合

	抗 う つ 薬							
	件数	処方無し	単剤	2剤	3剤	4剤	5剤	合計
抗精神病薬	処方無し	3537	3391	1029	126	4	2	8089
	単剤	4357	1169	377	48	3	0	5954
	2剤	2482	375	84	13	1	0	2955
	3剤	603	57	7	3	0	1	671
	4剤	141	12	6	0	0	0	159
	5剤	34	3	1	0	0	0	38
	6剤	5	1	0	0	0	0	6
	合計	11159	5008	1504	190	8	3	17872
	割合	処方無し	単剤	2剤	3剤	4剤	5剤	合計
	処方無し	19.8%	19.0%	5.8%	0.7%	0.0%	0.0%	45.3%
	単剤	24.4%	6.5%	2.1%	0.3%	0.0%	0.0%	33.3%
	2剤	13.9%	2.1%	0.5%	0.1%	0.0%	0.0%	16.5%
	3剤	3.4%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%
	4剤	0.8%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
	5剤	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
	6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	62.4%	28.0%	8.4%	1.1%	0.0%	0.0%	100.0%	

表 36 抗精神病薬×睡眠薬併用件数及び割合

	睡 眠 薬								
	件数	処方無し	単剤	2剤	3剤	4剤	5剤	6剤	合計
抗精神病薬	処方無し	4726	2182	1055	105	16	3	2	8089
	単剤	3056	1718	1046	116	15	2	1	5954
	2剤	1061	1038	752	75	21	8	0	2955
	3剤	205	211	197	48	9	1	0	671
	4剤	40	37	61	16	4	0	1	159
	5剤	9	17	6	2	4	0	0	38
	6剤	1	4	1	0	0	0	0	6
	合計	9098	5207	3118	362	69	14	4	17872
	割合	処方無し	単剤	2剤	3剤	4剤	5剤	6剤	合計
	処方無し	26.4%	12.2%	5.9%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	45.3%
	単剤	17.1%	9.6%	5.9%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	33.3%
	2剤	5.9%	5.8%	4.2%	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	16.5%
	3剤	1.1%	1.2%	1.1%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	3.8%
	4剤	0.2%	0.2%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
	5剤	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
	6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	50.9%	29.1%	17.4%	2.0%	0.4%	0.1%	0.0%	100.0%	

表 37 抗精神病薬×抗不安薬併用件数及び割合

	抗 不 安 薬						合計
	件数	処方無し	単剤	2剤	3剤	4剤	
抗精神病薬	処方無し	4476	2991	597	23	2	8089
	単剤	3808	1777	357	11	1	5954
	2剤	1873	886	189	6	1	2955
	3剤	383	235	49	4	0	671
	4剤	100	49	8	1	1	159
	5剤	26	8	4	0	0	38
	6剤	5	1	0	0	0	6
	合計	10671	5947	1204	45	5	17872
	割合	処方無し	単剤	2剤	3剤	4剤	合計
	処方無し	25.0%	16.7%	3.3%	0.1%	0.0%	45.3%
	単剤	21.3%	9.9%	2.0%	0.1%	0.0%	33.3%
	2剤	10.5%	5.0%	1.1%	0.0%	0.0%	16.5%
	3剤	2.1%	1.3%	0.3%	0.0%	0.0%	3.8%
	4剤	0.6%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
	5剤	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
6剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
合計	59.7%	33.3%	6.7%	0.3%	0.0%	100.0%	

表 38 抗うつ薬×抗不安薬併用件数及び割合

	抗 不 安 薬						合計
	件数	処方無し	単剤	2剤	3剤	4剤	
抗うつ薬	処方無し	7945	2719	479	14	2	11159
	単剤	2130	2387	466	23	2	5008
	2剤	539	744	213	7	1	1504
	3剤	56	91	43	0	0	190
	4剤	1	3	3	1	0	8
	5剤	0	3	0	0	0	3
	合計	10671	5947	1204	45	5	17872
	割合	処方無し	単剤	2剤	3剤	4剤	合計
	処方無し	44.5%	15.2%	2.7%	0.1%	0.0%	62.4%
	単剤	11.9%	13.4%	2.6%	0.1%	0.0%	28.0%
	2剤	3.0%	4.2%	1.2%	0.0%	0.0%	8.4%
	3剤	0.3%	0.5%	0.2%	0.0%	0.0%	1.1%
	4剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	59.7%	33.3%	6.7%	0.3%	0.0%	100.0%

表 39 抗うつ薬×睡眠薬併用件数及び割合

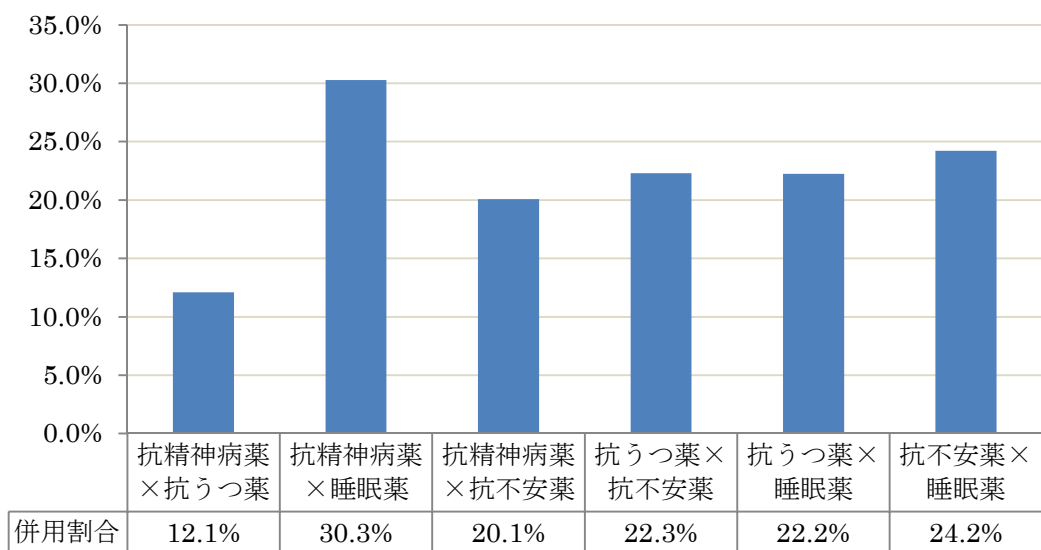
	睡 眠 薬								合計
	件数	処方無し	単剤	2剤	3剤	4剤	5剤	6剤	
抗うつ薬	処方無し	6361	2914	1637	200	35	9	3	11159
	単剤	2206	1712	966	99	22	2	1	5008
	2剤	478	520	443	51	9	3	0	1504
	3剤	52	60	68	9	1	0	0	190
	4剤	1	1	3	2	1	0	0	8
	5剤	0	0	1	1	1	0	0	3
	合計	9098	5207	3118	362	69	14	4	17872
	割合	処方無し	単剤	2剤	3剤	4剤	5剤	6剤	合計
	処方無し	35.6%	16.3%	9.2%	1.1%	0.2%	0.1%	0.0%	62.4%
	単剤	12.3%	9.6%	5.4%	0.6%	0.1%	0.0%	0.0%	28.0%
	2剤	2.7%	2.9%	2.5%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	8.4%
	3剤	0.3%	0.3%	0.4%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%
	4剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	5剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	50.9%	29.1%	17.4%	2.0%	0.4%	0.1%	0.0%	100.0%

表 40 抗不安薬×睡眠薬併用件数及び割合

	睡 眠 薬								合計
	件数	処方無し	単剤	2剤	3剤	4剤	5剤	6剤	
抗不安薬	処方無し	6224	2724	1516	171	28	6	2	10671
	単剤	2454	2111	1202	140	33	5	2	5947
	2剤	406	358	388	45	6	1	0	1204
	3剤	11	14	10	6	2	2	0	45
	4剤	3	0	2	0	0	0	0	5
	合計	9098	5207	3118	362	69	14	4	17872
	割合	処方無し	単剤	2剤	3剤	4剤	5剤	6剤	合計
	処方無し	34.8%	15.2%	8.5%	1.0%	0.2%	0.0%	0.0%	59.7%
	単剤	13.7%	11.8%	6.7%	0.8%	0.2%	0.0%	0.0%	33.3%
	2剤	2.3%	2.0%	2.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%
	3剤	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
	4剤	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	50.9%	29.1%	17.4%	2.0%	0.4%	0.1%	0.0%	100.0%

以上6通りの組み合わせについて、種類数を問わず併用ありの割合（各表中の灰色枠部分の合計）を比較した。最も割合が高いのは抗精神病薬×睡眠薬の組み合わせの30.3%で、抗不安薬×睡眠薬の組み合わせ24.2%がそれに次ぐ。

図 44 向精神薬処方上位4分類併用割合



## 4. 精神療法等実施状況

### (1) 疾病分類別精神療法等実施件数および割合

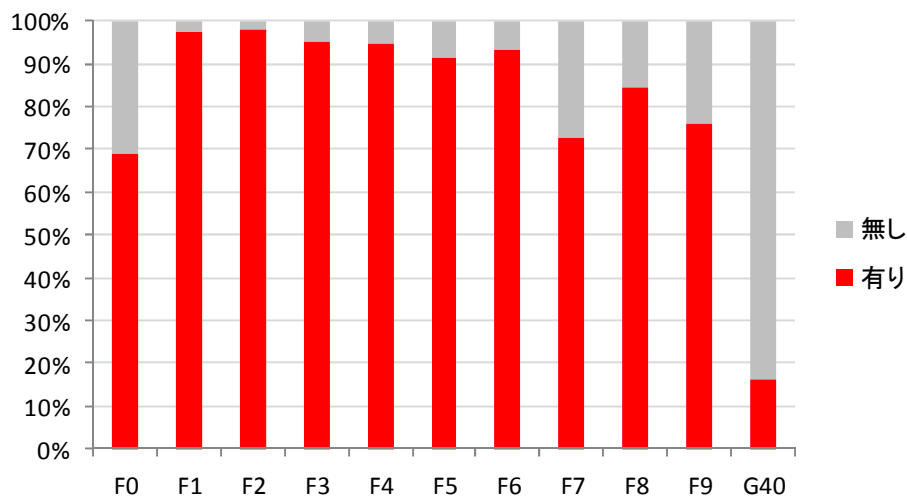
表 41 疾病分類別精神療法等実施数および割合

件数	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40	合計
疾病分類別件数	515	347	6262	6295	1080	60	187	885	547	189	1505	17872
支持的精神療法	355	338	6139	5987	1021	55	175	645	461	144	247	15567
認知行動療法	8	25	135	445	197	8	29	14	68	36	4	969
家族療法	114	38	362	355	52	9	18	77	173	58	75	1331
集団療法	1	36	28	21	1	2	0	4	13	0	0	106
その他の精神療法	9	6	36	35	17	0	2	55	21	2	79	262
実施割合	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40	合計
支持的精神療法	68.9%	97.4%	98.0%	95.1%	94.5%	91.7%	93.6%	72.9%	84.3%	76.2%	16.4%	87.1%
認知行動療法	1.6%	7.2%	2.2%	7.1%	18.2%	13.3%	15.5%	1.6%	12.4%	19.0%	0.3%	5.4%
家族療法	22.1%	11.0%	5.8%	5.6%	4.8%	15.0%	9.6%	8.7%	31.6%	30.7%	5.0%	7.4%
集団療法	0.2%	10.4%	0.4%	0.3%	0.1%	3.3%	0.0%	0.5%	2.4%	0.0%	0.0%	0.6%
その他の精神療法	1.7%	1.7%	0.6%	0.6%	1.6%	0.0%	1.1%	6.2%	3.8%	1.1%	5.2%	1.5%

#### ① 支持的精神療法

F1 から F6 までの 6 分類で実施割合は 90% を超えているが、F8、F9、F7、F0 では 90% を下回る。G40 は 16.4% と際だって低い。

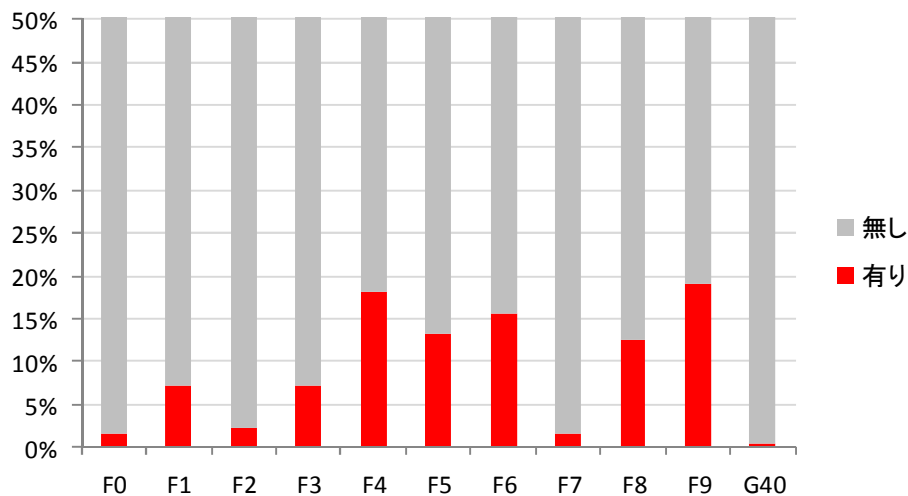
図 45 疾病分類別支持的精神療法実施割合グラフ



## ② 認知行動療法

F9、F4、F6 で実施割合は 15%を超え、F5、F8 でも 10%を超えているが、F1、F3 は 10%を下回る。F0、F2、F7、G40 での実施は少ない。

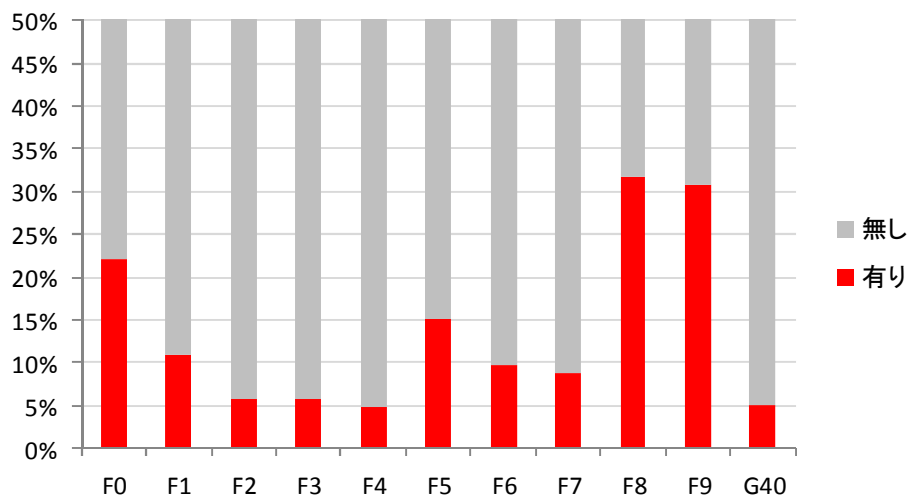
図 46 疾病分類別認知行動療法実施割合グラフ (以下 4 グラフの縦軸の最大値は 50%)



## ③ 家族療法

F8、F9 が 30%を超え、F0、F5、F1 が 10%以上 30%未満である。以下、10%未満で F6、F7、F2、F3、G40、F4 と続く。

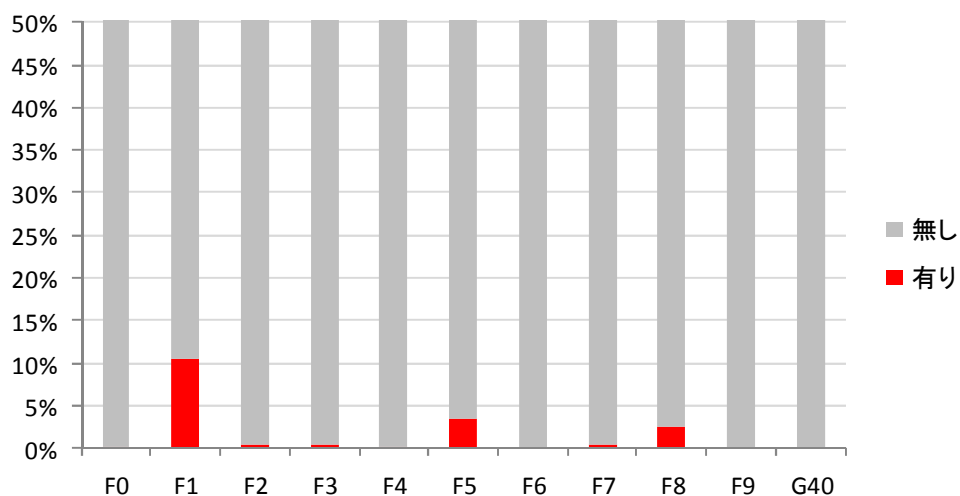
図 47 疾病分類別家族療法実施割合グラフ



#### ④ 集団療法

F1 で最も多いが 10%程度であり、それ以外はほぼ F5、F8 で実施されているのみである。

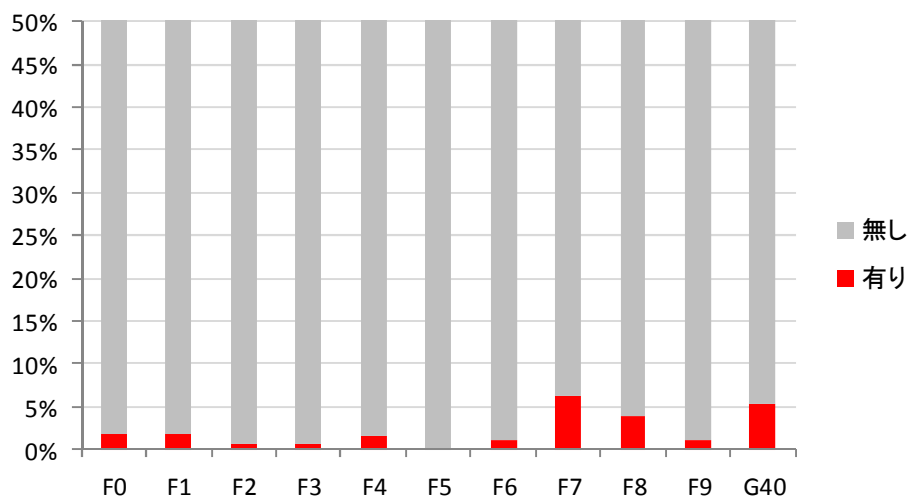
図 48 疾病分類別集団療法実施割合グラフ



#### ⑤ その他の精神療法

F7、G40、F8などで実施割合が高いがいずれも10%に満たない。( )内の具体的内容の記載としてはカウンセリング、作業療法、G40(のてんかん発作)に対する生活指導などが散見された。

図 49 疾病分類別その他の精神療法実施割合グラフ



(2) 家族療法に関するクロス集計

精神療法等のうち支持的精神療法に次いで実施割合の高い家族療法に関し、性別疾病分類別、件数上位2分類のF2、F3についてはそれぞれ年齢階級別に実施件数、割合を算出した。

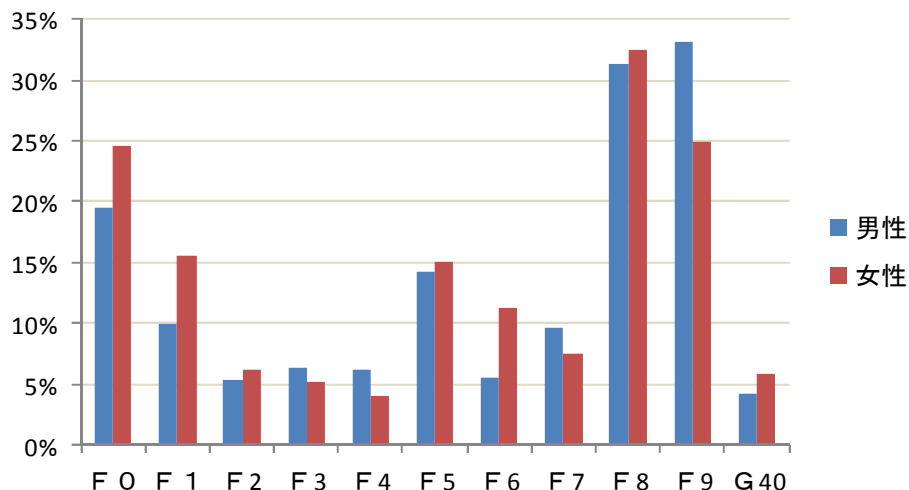
① 性別疾病分類別家族療法実施状況

F6、F1、G40、F0、F2で女性の実施割合が高くF9、F7、F4、F3で男性の実施割合が高い。

表 42 性別疾病分類別家族療法実施状況

実施件数(A)	FO	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40	計
男性	49	29	170	164	23	1	3	49	123	44	34	689
女性	65	9	192	191	29	8	15	28	50	14	41	642
対象件数(B)	FO	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40	計
男性	251	289	3165	2586	370	7	54	513	393	133	801	8562
女性	264	58	3097	3709	710	53	133	372	154	56	704	9310
実施割合(A/B)	FO	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40	計
男性	19.5%	10.0%	5.4%	6.3%	6.2%	14.3%	5.6%	9.6%	31.3%	33.1%	4.2%	8.0%
女性	24.6%	15.5%	6.2%	5.1%	4.1%	15.1%	11.3%	7.5%	32.5%	25.0%	5.8%	6.9%
計	22.1%	11.0%	5.8%	5.6%	4.8%	15.0%	9.6%	8.7%	31.6%	30.7%	5.0%	7.4%

図 50 性別疾病分類別家族療法実施割合



② 年齢階級別家族療法実施状況

(i) F2

加齢に伴い実施割合は減少する。

表 43 F2の年齢階級別家族療法実施状況

件数	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
実施有り	17	52	63	97	72	49	10	2	362
実施無し	45	484	1102	1421	1327	1189	281	51	5900
合計	62	536	1165	1518	1399	1238	291	53	6262
割合	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
実施有り	27.4%	9.7%	5.4%	6.4%	5.1%	4.0%	3.4%	3.8%	5.8%
実施無し	72.6%	90.3%	94.6%	93.6%	94.9%	96.0%	96.6%	96.2%	94.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

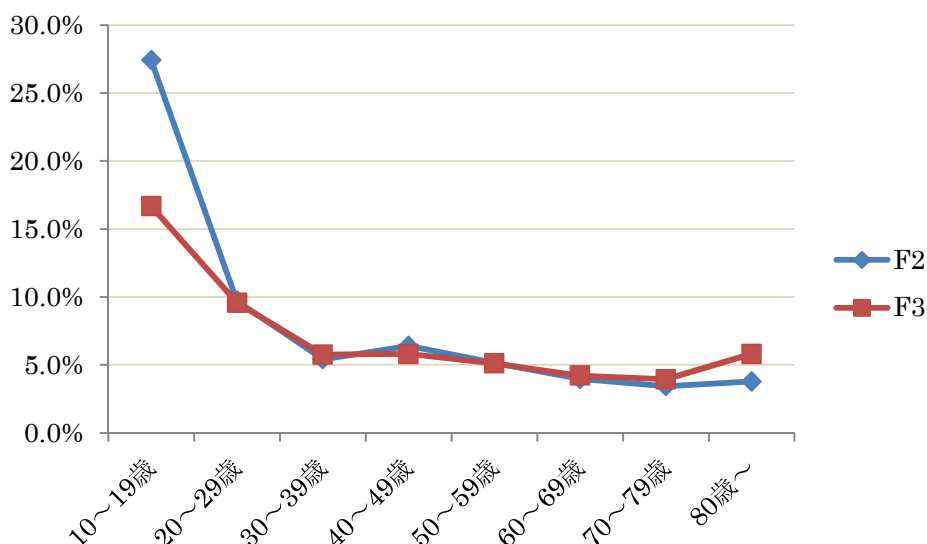
(ii) F3

実施割合はF2と同様に10代で最も高く、加齢に伴い減少する。件数が少なく評価は難しいが80歳以上で増加がみられる。やはり件数が少なく評価は難しいが、10～19歳ではF2に比べF3で実施割合がやや低い(図51)。20～79歳では両者の実施割合はほぼ等しい。

表44 F3の年齢階級別家族療法実施状況

件数	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
実施有り	8	53	69	86	69	53	13	4	355
実施無し	40	501	1131	1398	1282	1206	317	65	5940
合計	48	554	1200	1484	1351	1259	330	69	6295
割合	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	合計
実施有り	16.7%	9.6%	5.8%	5.8%	5.1%	4.2%	3.9%	5.8%	5.6%
実施無し	83.3%	90.4%	94.3%	94.2%	94.9%	95.8%	96.1%	94.2%	94.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図51 F2およびF3年齢階級別家族療法実施割合



## IV. まとめと考察

### (1) 調査の背景と目的

障害者総合支援法第五十二条第一項に基づく市町村への精神通院自立支援医療の申請について、当新潟県精神保健福祉センターは新潟市こころの健康センターと共同で定例月2回開催される判定会議の事務局を担当している。本県および新潟市は平成25年4月に、申請書に添付して提出される診断書（第5号様式(第4条関係)）の様式を改正し、「⑤ 現在の治療内容」の「1、投薬治療」欄に抗精神病薬、抗うつ薬等の分類ごとに種類数の記入を求めることとした。改正後しばらくの間は旧様式診断書での申請も多かったが、新様式で種類数も記入された診断書は徐々に増加し、向精神薬8分類のいずれかに丸印が付されているが処方された種類数とそのすべてで特定できない割合、すなわち本調査の対象外とした割合は様式改正後9か月を経過した平成26年1月判定の県管轄分で14.2%に低下した。そこで、主に医師または医療機関ごとの種類数の記入率の差に起因する選択バイアスは許容できる程度まで解消したと判断し、適正な精神通院自立支援医療確保に資する知見を得るとともに関係機関に情報提供を行うため、診断書の治療に関する記載内容の分析に着手することとした。その結果として得られた本調査報告書は新潟市以外に居住する新潟県民の平成26年と27年、2年間の手帳同時申請を除く精神通院自立支援医療受給認定に関し、原則として全数調査で性、年齢階級、主たる精神障害のICD-10疾病分類別に向精神薬8分類を中心に処方薬の種類数と精神療法等の実施状況を集約したものである。

### (2) 対象の基本属性

男女比は1:1.09、平均年齢±標準偏差は46.8±15.7才であった。疾病分類別件数はF3が最も多く、F2がほぼ同数でそれに次ぎ、両者の合計で全体の約7割を占めた。疾病分類性別ではF1は男性が、F5は女性が圧倒的に多かった。F3、F4、F6は女性が多く、F8、F9、F7は男性が多かった。F0、F2、G40は男女ほぼ同割合であった。

年齢階級別の件数は40代をピークとする単峰性で、生産年齢人口とほぼ重なる20歳以上70歳未満が全体の89%を占めた。各年齢階級の疾病分類別構成割合は10歳未満はF8、10代はG40、20代から30代でF3が最も多く、40代はF2が最多であった。50代から70代は再びF3が最も多く60歳以上では加齢に伴いF0の占める割合が急激に上昇していた。

### (3) 調査の限界

本調査の限界は

- ① 対象は精神科通院患者のうち精神通院自立支援医療を申請し、要件を満たして受給が認められたものに限られ、さらに診断書様式が異なる手帳同時申請は除かれるため精神科通院患者はもとより精神通院自立支援医療受給者全体を代表するデータでもない。

- ② 対象は新潟市以外の新潟県内に居住する受給者に限られ、大部分が県内の医療機関が作成した診断書に基づく申請であり、本調査で得られた知見は他の地域にそのまま適用はできない。
- ③ 再認定の場合、診断書の提出は2年に一度必要であるため数は多くないと思われるが、平成26年、27年の2年間に複数回申請し認定を受けた受給者は、提出し認定を受けた診断書の枚数分重複して計上されている。
- ④ 処方薬剤種類数の四半期別推移は、時期ごとに異なる患者への処方を集計したものであり、同一患者集団における処方の経時的な変化ではない。また、平成22年4月1日からそれまで毎年必要であった診断書の提出が2年に一度になったため、受給者数は平成22年度は少なく平成23年度は多く、以後1年度ごとに増減を繰り返している。年度と暦年で3ヶ月のずれはあるものの今回の対象についても平成27年の件数は平成26年の約2倍である。平成27年の受給者は平成26年と比べ平成22年4月1日以前からの受給者の占める割合が高いと考えられ、初診からの経過年数等、両年の対象者の特性にはなんらかの違いがある可能性が高いが、両年を分けた分析は行っていない。
- ⑤ 向精神薬8分類(抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、睡眠薬、抗てんかん薬、抗認知症薬、抗酒薬)のいずれかに丸印が付されていたが、その全てで種類数の特定が不可能であった診断書は対象外とした。それらを除外したことによる選択バイアスは許容できる範囲と考えたものの、平成26年の早い時期の申請は旧様式の診断書や、新様式でも処方薬剤種類数の記載が無く分析の対象外としたものもまだ多かったため、結果に少なからぬ影響を与えた可能性がある。
- ⑥ 対象とした診断書でも向精神薬8分類に丸印が付され、種類数の記入が無い場合はその薬剤分類を処方無しとして扱ったため、種類数をその分実際の処方より過小に評価した可能性がある。
- ⑦ 薬剤の分類方法は特に明示していないため、薬剤によっては診断書を作成した医師により分類の見解が異なる可能性がある。また、いわゆる頓用処方や合剤の場合の種類数の数え方も定めていないため、同じ処方でも診断書を作成した医師により種類数の見解が異なる可能性がある。
- ⑧ 具体的な薬剤名と成分量、剤形等の記載は求めているため、処方力価(例えば抗精神病薬におけるクロルプロマジン(CP)換算値)や剤形の違いは評価できない。
- ⑨ 「その他」薬は塩酸メチルフェニデート、アトモキセチン塩酸塩、抗パーキンソン薬、漢方薬(抑肝散など)、緩下剤、昇圧剤、生活習慣病治療薬等全てを一括して原則として種類数のみ記載されており、()内に具体的な薬剤名の記載があるものも含め種類数以外の分析は行っていない。
- ⑩ 処方された薬剤の服薬状況は診断書様式に該当する項目が無く分析できない。
- ⑪ PANSS (Positive and Negative Syndrome Scale)、GAF (Global Assessment of Functioning) スコア等の精神症状・機能評価尺度、QOL、治療効果や薬剤性錐体外路症

状等の評価指標、患者の自覚的評価指標も診断書様式に該当する項目が無く分析できない。

- ⑫ 入力後の確認作業は1回行っているが、読み取りの過程で読み取りミスや診断書作成医師の記入意図との違いが生じ、そのまま分析に供された可能性がある。

以上の点が挙げられる。

#### (4) 投薬治療全般

##### ① 各疾病分類について特異的に処方が多い薬剤

疾病分類別の投薬治療について、特異的に処方が多い薬剤分類はF2の抗精神病薬、G40の抗てんかん薬で、F9の「その他」薬の処方も高率であった。ほかにF0の抗認知症薬、F1の抗悪酔薬も処方割合こそいずれも40%程度と高くはないが、他の疾病分類での処方割合は全て1%未満と少なく、疾病特異性が高い薬剤と考えられる。

なお、本県診断書様式では処方薬剤「種類数」が正しい用語だが、既出論文等では「多剤、単剤」等が一般的であるため、本報告書では同義で両方の表記を用いている。

##### ② 四半期別の処方状況

診断書作成と判定会議開催の日付には40日（平成27年1月判定分479件の中央値）程度のタイムラグが存在することを前提に、四半期別の処方を比較した。処方無しも含むF2のうち診療報酬減算規定の対象となる抗精神病薬4種類以上の処方を受けていた割合は、平成26年第1四半期の5.3%から第3四半期にかけて2.6%にほぼ半減した後、第4四半期で1.7%までさらに低下した。年が変わり平成27年第1四半期に3.0%にいったん上昇した後は2%台で推移した。全疾病分類について、減算規定の対象となる睡眠薬3種類以上は平成26年第1四半期の4.1%から第3四半期の1.9%まで半減したが、第4四半期では一転して2.9%に上昇した後、平成27年第1四半期から第3四半期は2%台、第4四半期には1.5%まで低下した。同割合は全期間を通じゆるやかな減少傾向にあったと考えられる。抗うつ薬、抗不安薬はいずれも減算規定の対象となる種類数以上の処方は全ての四半期で1%未満と低く、割合の上昇・低下を論ずるのは困難であった。

#### (5) 抗精神病薬

##### ① 文献的考察

統合失調症に対する多剤大量療法の問題点や弊害については、平成11年発行の臨床精神医学講座第14巻「精神科薬物療法」の総論において、「薬物療法の多剤化・大量化の進行」と一項目を設け記載されている<sup>1)</sup>。平成17年には日本精神神経学会シンポジウム「わが国の精神医療における新規抗精神病薬の役割」で「多剤・大量処方からの脱却と新規抗精神病薬」<sup>2)</sup>が論じられ、翌年には「如何にして多剤大量療法を脱却するか」<sup>3)</sup>と題し、シンポジウムのテーマとなった。その6年後にも「抗精神病薬の多剤大量投与はどうか認識されているか」との特集記事<sup>4)</sup>が、また、平成27年には「精神科薬物療法における”Natural Resilience Theory”の提唱—抗精神病薬の多剤大量処方の是正に向けて—」と題し討論記事<sup>5)</sup>が掲載される等、精神科薬物療法の十数年来のテーマになっている。

また、生活習慣病等の身体リスクに目を向けると、近年、統合失調症患者の素因や陰性症状、生活習慣、薬物治療がいわゆるメタボリックシンドロームに及ぼす影響も注目されており、特に生活習慣のコントロールがより多く患者自身にゆだねられる外来患者で大きな問題とされる<sup>6)</sup>。本調査における F2 の平均年齢は 48.5 歳と生活習慣病対策が不可欠なライフステージにある対象者も多いと考えられ、この意味でも必要かつ十分な薬物療法と非薬物療法の組み合わせは重要である。

一方で抗精神病薬については急速な減薬で病状の悪化を来す可能性も指摘されており、最近では入院患者を対象とし、安全で効果的な減薬を目的とした精神科医療関係者用のツールβ版である「SCAP 法による抗精神病薬減量支援シート」が、平成 22-24 年度厚生労働科学研究費補助金「抗精神病薬の多剤大量処方の安全で効果的な是正に関する臨床研究」の成果物として国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所の web サイトで公開された<sup>7)8)</sup>。さらに、平成 27 年には日本神経精神薬理学会が統合失調症薬物治療ガイドライン<sup>9)</sup>を策定しており、それらの普及は本県においても有用と考えられる。

## ② 本調査の特徴とカバーする範囲

精神科薬物療法の処方薬剤種類数に関する調査研究の多くは入院患者を対象とするもので、通院患者を対象とした調査としては三島らの約 33 万人分の大規模診療報酬データを用いた経年的な処方の調査研究が挙げられる。同調査報告書<sup>10)</sup>では 20 歳以上 75 歳未満の一般人口における向精神薬（睡眠薬、抗うつ薬、抗不安薬、抗精神病薬）の推定処方率や処方力価、併用状況が示され性別年齢階級別の分析がされているが、疾病分類別の分析はされていない。本調査は対象者や方法について上記のとおり多くの限界は存在するものの、通院患者のうち手帳同時申請を除く精神通院自立支援医療受給者への処方薬剤種類数を ICD-10 疾病分類別に悉皆（しっかい）的に把握した点に意義がある。なお、上記大規模診療報酬データを用いた研究は 2005 年から 2009 年まで 5 年間の各 4 月から 6 月まで 3 か月間の 20 歳以上 75 歳未満の一般人口の向精神薬の処方率を診療報酬データから推定したものだが、最終年である 2009 年のデータに基づく推定処方率は抗精神病薬が 0.89%、抗うつ薬が 2.62%、睡眠薬が 4.72%、抗不安薬が 5.00%であった。本調査の処方割合（表 19 全疾病分類処方薬剤種類数）はそれと比べ抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬に関しては 8 倍から 14 倍、抗精神病薬にいたっては 60 倍以上と著しく高い（表 45）。

表 45 本報告書と大規模診療報酬データを用いた研究の処方割合の比較

	抗精神病薬	抗うつ薬	睡眠薬	抗不安薬
本報告書の処方割合(B)	54.7%	37.6%	49.1%	40.3%
大規模診療報酬データに基づく推定処方率(A)	0.89%	2.62%	4.72%	5.00%
比(B/A)	61.5	14.3	10.4	8.1

これは三島らの研究は向精神薬の処方を受けた勤労者とその家族の、受診した医療機関の標榜科目を限定しない診療報酬データに基づき一般人口の 3 か月処方率を推定したものであるのに対し、本調査の対象は精神通院自立支援医療の受給者で、その指定医療機関の多くは精神科または心療内科を標榜しているという違いを反映したと考えられる。ちなみに精神保健福祉資料、いわゆる 630 調査による新潟市を除く新潟県の平成 25 年 6 月 1 か月間の精神科

病院外来受診患者実数は 17,673 人、精神科診療所の同実数は 15,499 人、合計で 33,172 人であった<sup>11)</sup>。一方、時期は違うが、平成 26、27 年分の本調査の対象件数はそれぞれ 6,121 件、11,751 件で合計は 17,872 件であった（表 7 月別対象・対象外件数）。いずれも県管轄分に限るものの 630 調査は医療機関所在地、精神通院自立支援医療は患者の居住地を対象とするという違いがあるほか、受給者とそれ以外の精神科通院患者の受診頻度やその季節変動、630 調査対象者が複数の精神科医療機関を受診している可能性など不明な点も多いため正確な割合の算出は困難だが、両者を比較すると本調査の対象者は 630 調査における精神科外来受診患者の相当な割合を占めていると推測される。

### ③ 処方量の推定

F2 で抗精神病薬の処方を受けていた対象のうち単剤での処方は 52.4%であった。なお、抗精神病薬の種類数が多い例では「前医からの処方を変更し減薬中」等の特記があるものも散見され、今後経過とともに受給者全体として減薬が進む可能性は高いと考えられる。診断書様式では具体的な薬剤名や剤型、分量等の記載は求めているため抗精神病薬の CP（クロルプロマジン）換算値等処方量の算出はできないが、入院患者を対象とする調査で抗精神病薬が 1 剤増えるごとに CP 換算値は約 500mg 増えるとの報告も有り<sup>12)</sup>、入院と外来の違いを無視すれば処方量の推定は可能である。試みに本調査における F2 の平均投与種類数 1.605 を、上記論文の換算式（投与量＝(499×剤数－192) mg）に代入し CP 換算投与量を推定すると 608.8mg/日となった。上記 SCAP 法に基づく臨床研究の組み入れ対象は抗精神病薬 2 剤以上、CP 換算値で 500～1500mg/日を投与されている精神科入院患者であるが、本調査の平均投与種類数はその下限を下回っており、それに基づき試算した CP 換算投与量も下限に近い。

## (6) 抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬

### ① 睡眠薬

本調査の全疾病分類合計の処方割合は抗精神病薬が 54.7%と最も高いが、睡眠薬は 49.1%、抗不安薬は 40.3%、抗うつ薬は 37.6%と、それら 3 薬剤分類も抗精神病薬に次ぐ高い割合で処方されていた。抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬も含む向精神薬全般に関しては厚生労働省自殺・うつ病等対策プロジェクトチームが平成 22 年に「過量服薬への取組－薬物治療のみに頼らない診療体制の構築に向けて－」<sup>13)</sup>として取り組みを公表している。さらに、睡眠薬に関しては平成 24 年度厚生労働科学研究・障害者対策総合研究事業「睡眠薬の適正使用及び減量・中止のための診療ガイドラインに関する研究班」と、「日本睡眠学会・睡眠薬使用ガイドライン作成ワーキンググループ」が共同で「睡眠薬の適正な使用と休薬のための診療ガイドライン」<sup>14)</sup>を策定した。本調査でも全対象の睡眠薬の 2 剤以上処方の割合はピークである 50 代で 20%を超えていたが、一方で精神療法等に関しては、例えば認知行動療法の全対象件数に対する実施割合は 5.4%であった。不眠症の初期治療から始まり、薬物療法の最適化、睡眠衛生指導や認知行動療法など非薬物療法の活用等、不眠医療を安全かつ効果的に行うために必要となる最新のエビデンスに立脚した実践的フレームワークを提供することを目的とした上記「ガイドライン」の普及は本県においても有用と考えられる。

## ② 抗うつ薬、抗不安薬

本調査の全対象件数についての抗うつ薬、抗不安薬の処方割合はそれぞれ 37.6%、40.3%であったが、2剤以上処方の割合は 9.5%、7.0%（表 19）、両者の併用の割合は 22.3%であった（図 44）。近年、精神神経学雑誌では「（抑うつ障害、不眠、社交不安障害（SAD）、月経前不快気分障害（PMDD）に対し）どこから薬物療法を開始すべきか」<sup>15)</sup>、「抗うつ薬の適切な使用法をもう一度考えてみる」<sup>16)</sup>と題した特集が生まれ、抗うつ薬と抗不安薬の処方開始とその整理の仕方、日本人うつ病患者における抗うつ薬の反応予測などが論じられた。また、日本うつ病学会は「日本うつ病学会治療ガイドライン I. 双極性障害」<sup>17)</sup>と「日本うつ病学会治療ガイドライン II. うつ病（DSM-5）/ 大うつ病性障害」<sup>18)</sup>を平成 23 年以降あいついで策定、改訂しておりこれらの普及も有用と考えられる。

## ③ 自殺予防との関連

新潟市自殺未遂者実態把握調査では平成 19 年から 23 年までに新潟市内救命センター 2 カ所を受診した自殺未遂・既遂者の薬物を用いた自殺自傷行為のうち、処方薬によるものが 85.3%を占め、重複回答によるその内訳としては本調査の薬剤分類で睡眠薬と抗精神病薬の一部、およびそれらの合剤等に相当すると考えられる催眠鎮静薬が 58.3%と最も多く、次いで抗不安薬が 44.1%、抗うつ薬が 28.5%を占めていた<sup>19)</sup>。また、松本らは精神科病院を受診した鎮静剤（睡眠薬もしくは抗不安薬）関連障害患者は覚せい剤関連障害患者と比較すると過去一年以内の自己破壊的行動が多いと指摘している<sup>20)</sup>。本調査では抗精神病薬も含む向精神薬 8 分類とその他薬に関して、疾病分類ごとに最も処方割合が高い薬剤分類、すなわち主剤の処方有り者数を 1 とした場合の他薬剤分類の同数の比を算出し、処方パターン分類を試みたらところ、F3、F4、F5、F6 の 4 疾病分類が抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬を主とする処方パターンに分類され（図 24）、この 4 疾病分類の合計で全対象件数の 42.6%を占めていた。新潟市自殺未遂者実態把握調査結果とこの処方パターン分類の結果をあわせて考えると、本県においても主にこれらの 4 疾病分類に対する抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬の過量服薬防止について、何らかの取り組みが必要と考えられる。一方で、前記「過量服薬への取組—薬物治療のみに頼らない診療体制の構築に向けて—」が過量服薬を「この問題は、単に薬剤の処方というだけでなく、患者との良好な治療関係を保つことができるような十分な診療体制が不足していることや、患者に対する知識、薬物の入手方法など、根本的な解決に向けては、精神科医療のみならず、多くの領域が関与する根の深い問題である。」と指摘しているとおり、不用意な規制が結果として「患者を医療から遠ざけることになりかねない」ことへの配慮も必要と考えられる。

### (7) F0 への処方薬剤

F0 へは抗認知症薬が 43.5%と最も処方割合が高かったが、抗精神病薬が 39.0%とそれに匹敵する割合であったほか、睡眠薬の 29.1%、抗不安薬の 20.6%も比較的高く、抗てんかん薬、抗うつ薬、気分安定薬も 10%以上であった。それらは睡眠障害等 BPSD（Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia、認知症の行動・心理症状）への対処を目的としたも

のも多いと推察される。本調査の年齢階級別疾病分類割合でも加齢に伴い F0 の占める割合は急激に上昇しており、今後高齢化により精神通院自立支援医療を受給する認知症の患者数はさらに増加することが予想される。BPSD に対する効果的な処方には「かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドライン」<sup>21)</sup>の普及や県内 8 か所(平成 27 年 11 月 1 日現在)に設置されている認知症疾患医療センターとの連携も有用と考えられる。

#### (8) 精神療法等

支持的精神療法は全対象者の 87.1%、家族療法は 7.4%、認知行動療法は 5.4%、集団療法は 0.6%、その他の精神療法は 1.5%に実施されていた。疾病分類別では支持的精神療法は F1 から F6 までの 6 分類で、認知行動療法は F9、F4、F6、F5、F8 で、家族療法は F8、F9、F0、F5、F1 で、集団療法は F1 で比較的实施割合が高かった。性別疾病分類別の家族療法実施状況は F0、F1、F6 は女性で、F9、F7、F4、F3 は男性で実施割合が高かった。F2、F3 に限った年齢階級別家族療法実施割合は両者とも 10 代で最も高く、30 代以降はほぼ 5%前後で一定であった。

例えば統合失調症治療においては、心理社会的治療は薬物療法とならぶ車の両輪に例えられている<sup>22)</sup>。しかし、本調査においても比較的实施割合の高い支持的精神療法以外は、いずれも実施割合は 10%に満たず、病状・障害の程度に応じ適用範囲を拡大する余地は少ないと考えられる。

#### (9) まとめ

精神科外来における必要かつ十分な投薬治療と精神療法等は精神障害者の QOL 向上や地域生活の定着、自殺予防の観点から重要と考えられる。各指定自立支援医療機関には診断書(第 5 号様式(第 4 条関係))の作成と精神通院自立支援医療の実施について感謝申し上げるとともに、制度の円滑な運用のため引き続き御協力をお願いしたい。当センターとしては本調査のさらなる分析等を通じ精神通院自立支援医療の治療内容を把握し、結果を公表していく必要があると考えている。

## 文 献

- 1) 八木 剛平, 渡邊 衡一郎:精神科薬物療法の歴史と展望. 精神科薬物療法 (村崎 光邦, 青葉安里編, 臨床精神医学講座第14巻). 中山書店, 東京, p. 17, 1999
- 2) 河合 伸念, 山川 百合子, 太刀川 弘和ほか: 第100回日本精神神経学会総会シンポジウム 多剤・大量処方からの脱却と新規抗精神病薬. 精神神経学雑誌, 107(1); 67-74, 2005
- 3) 石郷岡 純, 宮本 聖也, 渡邊 衡一郎ほか: 第101回日本精神神経学会総会シンポジウム 如何にして多剤大量療法を脱却するか. 精神神経学雑誌, 108(6); 597-630, 2006
- 4) 岩田 仲生, 山之内 芳雄, 吉尾 隆ほか: 特集 抗精神病薬の多剤大量投与はどう認識されているか. 精神神経学雑誌, 114(6);681-707, 2012
- 5) 八木 剛平, 鈴木 健文, 内田 裕之: 精神科薬物療法における” Natural Resilience Theory” の提唱 -抗精神病薬の多剤大量処方の是正に向けて-. 精神神経学雑誌, 117(1);10-17, 2015
- 6) 須貝 拓朗, 菅原 典夫, 鈴木 雄太郎ほか: 精神病薬治療と身体リスクに関する合同プロジェクト活動報告. 日本精神科病院協会雑誌, 31(7);73-79, 2012
- 7) 平成22-24年度厚生労働科学研究費補助金「抗精神病薬の多剤大量処方の安全で効果的な是正に関する臨床研究」SCAP group, 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所社会精神保健研究部: SCAP法による抗精神病薬減量支援シート. 2013  
[http://www.ncnp.go.jp/nimh/syakai/file/20130927scap/scap\\_introduction.pdf](http://www.ncnp.go.jp/nimh/syakai/file/20130927scap/scap_introduction.pdf)  
(平成28年12月27日アクセス)
- 8) 山之内 芳雄, 助川 鶴平, 稲垣 中ほか: 抗精神病薬多剤大量処方からの安全で現実的な減量法: SCAP法. 精神神経学雑誌, 117(4);305-311, 2015
- 9) 日本神経精神薬理学会: 統合失調症薬物治療ガイドライン. 2016  
<http://www.asas.or.jp/jsnp/csrinfo/03.html> (平成28年12月27日アクセス)
- 10) 平成22年度厚生労働科学研究補助金(厚生労働科学特別研究事業)「向精神薬の処方実態に関する国内外の比較研究」:分担研究報告書「診療報酬データを用いた向精神薬処方に関する実態調査研究」. 2011  
[http://www.ncnp.go.jp/tmc/pdf/22\\_report02.pdf](http://www.ncnp.go.jp/tmc/pdf/22_report02.pdf) (平成28年12月27日アクセス)
- 11) 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課, (独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所: 精神保健福祉資料 平成25年度6月30日調査の概要. P 115, P 139, 2016  
[http://www.ncnp.go.jp/nimh/keikaku/630/assets/pdf/h25\\_630.pdf](http://www.ncnp.go.jp/nimh/keikaku/630/assets/pdf/h25_630.pdf)  
(平成28年12月27日アクセス)
- 12) 助川 鶴平: 抗精神病薬多剤大量投与の是正に向けて. 精神神経学雑誌, 114(6);696-701, 2012
- 13) 厚生労働省自殺・うつ病等対策プロジェクトチーム:過量服薬への取組—薬物治療のみに頼らない診療体制の構築に向けて—. 2010  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/jisatsu/dl/torimatome\\_5.pdf](http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/jisatsu/dl/torimatome_5.pdf) (平成28年12月27日アクセス)

- 14) 厚生労働科学研究・障害者対策総合研究事業「睡眠薬の適正使用及び減量・中止のための診療ガイドラインに関する研究班」および日本睡眠学会・睡眠薬使用ガイドライン作成ワーキンググループ：睡眠薬の適正な使用と休薬のための診療ガイドライン-出口を見据えた不眠医療マニュアル-. 2013 [http://www.ncnp.go.jp/pdf/press\\_130611\\_2.pdf](http://www.ncnp.go.jp/pdf/press_130611_2.pdf) (平成 28 年 12 月 27 日アクセス)
- 15) 黒木 俊秀, 仙波 純一, 永田 利彦ほか： 特集 どこから薬物療法を開始すべきか. 精神神経学雑誌, 117(4);269-298, 2015
- 16) 渡邊 衡一郎, 加藤 正樹, 鈴木 雄太郎ほか： 特集 抗うつ薬の適切な使用法をもう一度考えてみる. 精神神経学雑誌, 118(3);133-157, 2016
- 17) 日本うつ病学会： 「日本うつ病学会治療ガイドライン I. 双極性障害 2012」  
[http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/mood\\_disorder/img/120331.pdf](http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/mood_disorder/img/120331.pdf) (平成 28 年 12 月 27 日アクセス)
- 18) 日本うつ病学会： 「日本うつ病学会治療ガイドライン II. うつ病 (DSM-5) / 大うつ病性障害 2016」 [http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/mood\\_disorder/img/160731.pdf](http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/mood_disorder/img/160731.pdf) (平成 28 年 12 月 27 日アクセス)
- 19) 新潟市:新潟市自殺未遂者実態把握調査結果報告書. P 76-77, 2012  
<http://www.city.niigata.lg.jp/iryo/kokoro/jisatsu/jittaihaaku.files/jittaihaakutyousa.pdf> (平成 28 年 12 月 27 日アクセス)
- 20) 松本 俊彦, 尾崎 茂, 小林 桜児ほか： わが国における最近の鎮静剤 (主としてベンゾジアゼピン系薬剤) 関連障害の実態と臨床的特徴 -覚せい剤関連障害との比較-. 精神神経学雑誌, 113(12);1184-1198, 2011
- 21) 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業「認知症、特に B P S D への適切な薬物使用に関するガイドライン作成に関する研究」：かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドライン. 2013  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r98520000036k0c-att/2r98520000036k1t.pdf> (平成 28 年 12 月 27 日アクセス)
- 22) 小石川 比良来, 伊藤 順一郎： 第 100 回日本精神神経学会総会シンポジウム 新規抗精神病薬と心理社会的治療の組み合わせの意義. 精神神経学雑誌, 107(1); 59-66, 2005

## 診 断 書 ( 精 神 通 院 医 療 )

氏 名	明治・大正・昭和・平成 年 月 日生( 歳)		男 ・ 女
住 所			
① 病名 〔ICDコードは、 F00からF99まで 又はG40のいづ れかを記載し てください。〕	主たる精神障 害	病名( )	ICDコード( )
	従たる精神障 害	病名( )	ICDコード( )
	身体合併症		
② 発病から 現在までの 病歴 〔発病状況、治療 の経過その他参 考となる事項を 詳しく記載して ください。〕	(推定発病時期 年 月ころ)		
③ 現在の病状、状態像等(治療を中止すれば出現する可能性のある症状を含みます。) (該当する番号を○印で囲んでください。)			
1 抑鬱状態 (1)思考・運動抑制 (2)易刺激性・興奮 (3)抑鬱気分 (4)その他( )			
2 そう状態 (1)行為心迫 (2)多弁 (3)感情高揚・易刺激性 (4)その他( )			
3 幻覚妄想状態 (1)幻覚 (2)妄想 (3)その他( )			
4 精神運動興奮及びこん迷の状態 (1)興奮 (2)こん迷 (3)拒絶 (4)その他( )			
5 統合失調症等残遺状態 (1)自閉 (2)感情平板化 (3)意欲の減退 (4)その他( )			
6 情動及び行動の障害 (1)爆発性 (2)暴力・衝動行為 (3)多動 (4)食行動の異常 (5)チック・汚言 (6)その他( )			
7 不安及び不穏 (1)強度の不安・恐怖感 (2)強迫体験 (3)心的外傷に関連する症状 (4)解離・転換症状 (5)その他( )			
8 てんかん発作等(けいれん及び意識障害) (1)てんかん発作 (発作型( ) 頻度( )) (2)意識障害 (3)その他( )			
9 精神作用物質の乱用、依存等 (1)アルコール (2)覚醒剤 (3)有機溶剤 (4)鎮静・催眠剤 (5)その他( ) (ア 乱用 イ 依存 ウ 残遺性・遅発性精神病性障害 エ その他( ))			
10 知能・記憶・学習等の障害 (1)知的障害(精神遅滞)(ア 軽度 イ 中等度 ウ 重度) (2)認知症 (3)その他の記憶障害( ) (4)学習の困難(ア 読み イ 書き ウ 算数 エ その他( )) (5)遂行機能障害 (6)注意障害 (7)その他( )			
11 広汎性発達障害関連症状 (1)相互的な社会関係の質的障害 (2)コミュニケーションのパターンにおける質的障害 (3)限定した常同的で反復的な関心と活動 (4)その他( )			
12 その他( )			

④ 上記③の病状、状態像等の具体的程度、症状、検査所見等を詳しく記載してください。  
(病名のICDコードがF4の場合は、生活能力障害の有無に関わる症状を詳しく記載してください。)

⑤ 現在の治療内容(該当する番号を○印で囲んでください。)

1 投薬治療 (( )内に薬剤の種類数を記載してください。)

(1)抗精神病薬( ) (2)抗鬱薬( ) (3)気分安定薬( ) (4)抗不安薬( ) (5)睡眠薬( )  
(6)抗てんかん薬( ) (7)抗認知症薬( ) (8)抗酒薬( ) (9)その他(薬剤の名称: )

※ 薬剤の種類数の記載については、当該薬剤の種類数が3以上の場合は、当該薬剤の名称及び当該薬剤を処方した理由を記載してください。

[ ]

2 精神療法等

(1)支持的精神療法 (2)認知行動療法 (3)家族療法・指導 (4)集団精神療法  
(5)その他( )

3 訪問看護指示の有無 (1)有 (2)無

4 その他( )

⑥ 今後の治療方針(該当する番号を○印で囲んでください。)

- 1 通院治療を継続する必要がある。
- 2 通院治療が不要となる可能性がある。
- 3 入院治療の可能性がある。
- 4 その他

[ ]

⑦ 現在の障害福祉サービス等の利用状況(該当する番号を○印で囲んでください。)

1 未就学児 2 就学中 3 無職在宅 4 就労((1)正社員 (2)パート (3)その他)

5 居宅介護(ホームヘルプ) 6 共同生活介護(ケアホーム) 7 自立訓練(生活訓練)

8 共同生活援助(グループホーム) 9 5~8以外の障害福祉サービス( )

10 生活保護 11 精神科デイ・ケア又はナイト・ケア 12 精神科訪問看護・指導

13 その他( )

⑧ 備考(判定の参考となる事項を記載してください。)

年 月 日

医療機関所在地

名 称

電 話 番 号

診 療 担 当 科

医師氏名(署名又は記名捺印)